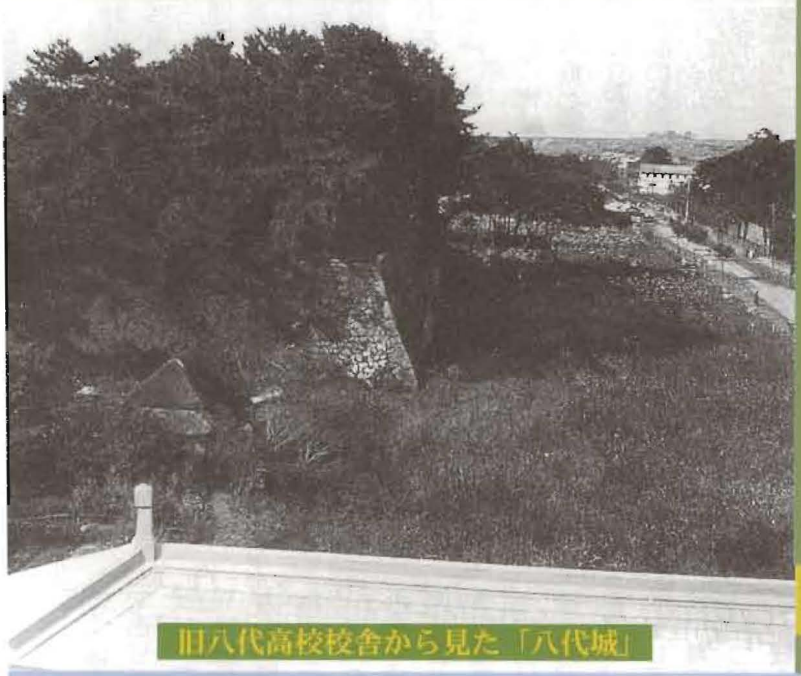


旧八代高校校舎から見た「八代城」

道

八代中学・八代高女・八代高校

八高同窓会会報 第3号

編集・発行　熊本県立八代高等学校同窓会　　平成23年12月15日発行

2 なぜ八代にお城があるのか
3 同窓会長・学校長挨拶
4 平成23年度 大同窓会報告
6 各支部・地区同窓会紹介
11 学年同窓会だより
16 座談会『高5回～15回』
20 母校だより
23 八高史
24 頑張ってます！
25 八代だより
27 同窓会決算・予算・行事予定
28 次回同窓会案内



昭和四十年、永碇町の現校舎に移る前までは、八代宮の東側、現在八代市役所が建っているところに校舎がありました。
それまでの生徒たちは、八代宮の四季の移り変わりを見ながら八代宮を借景として時間を過ごし、勉強にスポーツにと打ち込んでいました。表紙上部の写真で、下に白く見えるのが旧木造校舎の屋根です。当時の校舎屋上より西方を展望した写真です。(昭和初年撮影)
ここで過ごされた先輩たちは、八代宮の石垣に、お堀に、泳ぐ亀に、鯉に、桜に各々の想いを持たれたのではないでしょうか。

なぜ八代にお城があるのか

八代市立博物館学芸員　鳥津　亮二

八代の市街地中心に佇む八代城(松江城)跡。その勇壮な石垣と静寂な堀の水面は、まさしく江戸時代の原風景そのもの。八高の校歌「道」にも「古城の壕深く沈み」、生徒歌にも「松江の城の森の辺に」と詠みこまれているように、この城跡は私たちに郷土の歴史の深さを伝えてくれる身近な存在です。

ところで、そもそもなぜ八代にお城があるのでしょう?なぜ現在の場所に城跡があるのでしょう?

歴史上、八代には三つの「八代城」が存在しました。最初の八代城は、南北朝時代から戦国時代にかけて名和氏・相良氏によって築城・整備された古麓城(古麓町)です。一般的にお城といえば、石垣や天守閣などを想像される方が多いと思いますが、実はそれが一般的になるのは織田信長の安土城以降のこと。それ以前のお城は石垣も天守閣もない、「山の上の砦」のようなもので、古麓城も典型的な中世山城です。ですので、現在の私たちはなかなかイメージしにくいのですが、松井家の菩提寺・春光寺の裏山全体が初代の八代城で、古麓町一帯が城下町だったのです。

その古麓城に一五八七年(天正一五)豊臣秀吉が大軍とともにやってきます。九州統一の途中、ここで四日間を過ごすのですが、秀吉は古麓から八代を眺め、九州西海岸の中心部に位置するこの地域の海の利便性に着目し、八代を港湾都市とする構想を抱きます。そして、秀吉から八代の統治を任されたキリシタン大名・小西行長は、古麓城を廃して、球磨川河口の海岸沿い、重要港湾・徳渕近くにお城を移転します。これが二つ目の八代城である麦島城(古城町)です。

小西行長は、秀吉のもとで海上輸送や対外貿易の分野で能力を発揮した家臣で、ヨーロッパの宣教師から「海の司令官」と称された人物です。行長に八代を統治させたのはまさしく秀吉の人事配置であり、実際に麦島城時代の八代は、国際港湾・徳渕を中心に経済的な発展を遂げ、イエズス会の記録に「商業と交易で栄えた大きな町」と記されています。

一六〇〇年(慶長五)関ヶ原合戦を境に、八代の統治者は小西行長から加藤清正へと替わり、清正没後の一六一二年(慶長一七)には加藤家の筆頭家老・加藤正方が八代を治めることになります。

そして一六一五年(元和元)、徳川幕府は各地の大名に「お城は一つだけしかダメ」という一国一城令を出します。これにより、熊本城以外の肥後のお城(内牧城とか佐敷城とか)は廃城となるのですが、八代城(麦島城)だけは存続となります。これは、幕府が八代を海上交通、および南の薩摩対策として重要な拠点として認識していたからです。大名の居城以外でこうした地理的重要性により存続が認められたお城は、全国的にみても八代以外にほとんど例がありません。

しかし、その四年後の一六一九年(元和五)、八代地域を襲った大地震により麦島城は倒壊します。もともと特例により存在していたお城なので、これを機に廃止されてもよさそうなものですが、それでも幕府は「八代には城が不可欠」として八代城存続を認め、さらに大規模な城郭・城下町建設のために、お城を松江村に移転させます。これが三つ目の八代城、すなわち私たちが普段目にしている松江城(松江城町)です。

松江城は加藤正方によって設計・整備され、一六二二年(元和八)に竣工しますが、このお城ももともとは海岸沿いに造られていました。江戸時代後期から近代にかけての干拓によって平野が西に広がったため、現在ではイメージしにくいですが、麦島城・松江城いずれも「海辺の城と城下町」なのです。



江戸時代の八代平野と古麓城・麦島城・松江城の立地

麦島城と同じく、松江城も「日本の要」として江戸幕府が特別に建設・存続を認めた重要なお城。この城の立地は、徳川幕府が八代に期待した海上交通の要衝、異国船防備の役割をそのまま反映しているのです。そして、加藤氏から細川氏・松井氏と城主を替えながら松江城は「日本の要」として明治維新まで存続したのでした。

このように、三つの「八代城」の存在は、全国的にみても極めて特殊なことであり、八代独自の地理的環境と歴史の象徴なのです。今一度、たくさんの方にお城・城下町の歴史を通して「八代らしさ」を感じていただくことは、今後の八代の街づくりの一つのヒントになると、私は考えています。


古麓城跡


八代城(松江城)跡

母校の教育振興のために



会　長
岡山元紀

平成八年、八代高校が創立百周年を迎えた時、同窓会では全国の同窓生に呼びかけて、母校の教育振興のための募金を行い、集まった約六千万円のお金を基に「八代高校教育振興基金」を作りました。

ブラスバンド楽器の購入を第一回目として、講演会の講師への謝礼、ビデオ編集機器や冷暖房機の購入、また、観葉植物の設置、体育館に製氷機を設置するなど、後輩諸君に対してさまざまな支援を行ってまいりました。

さらに平成二十一年、八代高校の敷地の内に県立八代中学校が開校し、中高一貫の教育校となってからは、八代中学校への支援活動も行っております。

八代高校の母体の一つ、旧制八代高等女学校の卒業生で、三十九年間、八代高校で教鞭を執られました土生フジ先生がお亡くなりになり、ご遺族から、八代高校をこよなく愛した故人の気持ちを酌んで遺産の一部を寄付したいと申し出がありました。

土生先生からいただいたお金は「八代高校教育振興基金」に組み入れ、先生のお気持ちに添うように活用したいと考えます。

その一環として、「同窓会賞」の授与を行うことにしました。

これまで本校での卒業生表彰は、「PTA賞」の他は、全て県からの表彰となっております。

衛藤校長からも、他校では卒業式で「同窓会賞」を授与するところが多い。本校でもそうしてもらえれば生徒の励みになりありがたいと要望がありました。

よく頑張った、よく努力した生徒を三名ほど、学校で選考していただき授賞する予定です。

同窓会では、母校の教育振興のため、これからも努力をして参りたいと考えております。

よろしくご協力をお願い申し上げます。



八高の位置を示す
『モニュメント「魁(さきがけ)」』
(平成21年度卒業生寄贈)

八代高校同窓会報「道」
御挨拶



学校長
衛藤　繁

八代の沃野は秋の訪れとともに、見事な黄金色の収穫期を迎えています。昨年四月の赴任以来、地元八代での大同窓会を始め、関西、中国四国、関東、福岡、熊本など各地の同窓会に出席させていただきました。その都度卒業生の皆様の母校八高に対する熱き思いや深い愛情、そして一一六年の伝統と歴史を痛感しますとともに、いかに多くの先輩諸氏が、社会に有為な人材として多方面で御活躍されていますことに敬意を表します。

同窓会の皆様には、日頃より母校の教育活動に御支援・御協力賜りまして感謝申し上げます。特にこの三年間は、県立八代中学校の学校作りのため、中学生専用のテント、部活動の部旗、八代中学大横断幕、吹奏楽部の楽器等々を寄贈していただきありがとうございました。創立時は費用が嵩みますが、多大な御支援により助かっています。心より感謝申し上げます。中学生も先輩方の期待に応えるべく日々学習に部活動に頑張っているところです。先日の八代地区の陸上中体連では団体総合三位と健闘しました。高校生も、それぞれの夢に向かって八高生活を意義あるものにしようと努力しています。この三月の卒業生も、医学部や難関大に多数合格し、「文武両道」を実践しました。

今年度、六学年揃い本県最初の中高一貫教育校が完成し、新たな歴史の第一歩を踏み出しました。この学舎で在校生たちが、先輩諸氏の八高精神を受け継ぎ次世代に伝えていけるように、生徒職員全員で「文武両道」を更に推進させたい。また、将来郷土八代や熊本を担う旗手として、日本や世界で羽ばたく鳳凰として、社会を生き抜くための知恵や忍耐力、的確な判断力、豊かな発想力に磨きをかけさせたいと思っています。

同窓会の皆様には、今後とも本校の教育活動に対しまして、温かな御理解・御支援をお願いいたしますとともに、同窓会の皆様の今後の御活躍、御健勝を衷心より御祈念申し上げます。



平成23年度

八代中学・八代高女・八代高校同窓会



岡山元紀同窓会長の挨拶

平成23年度の同窓会が、8月27日に八代ホワイトパレスで、「ふるさと～受け継がれてゆくもの～」をテーマに開催されました。
好天の中、約550名の同窓生が各地から集まり、総会、記念講演、懇親会が盛会に行われました。
今年度の幹事は、昭和52年卒・八代高校29回生が務めました。

総会では、岡山元紀会長、衛藤繁名誉会長（八代中学・高校長）の挨拶に続き、来賓出席の関東地区同窓会の守屋充男会長、関西同窓会の宮崎正郎会長、岡山同窓会の吉田高範事務局長、福岡支部の佐藤好助会長、熊本市支部の冨田徹也会長が各同窓会の様子をまじえながらご挨拶されました。

平成22年度の同窓会行事・会計決算、23年度の同窓会役員・行事・予算案などが承認され、同窓会報や年会費納入、花馬奉納会についての報告が行われました。なお、八代高校教育振興基金による22年度の教育助成は、八代中学の天幕2張や団旗の購入などに使われています。

大同窓会 懇親会




最高齢参加者の緒方基一さんと佐渡ノブ子さん

講演会

記念講演は、山下繁人さん（高29回生）が「俳句のふるさと八代」と題して、八代が輩出した2人の偉人にまつわるエピソードなどを紹介しました。
江戸時代の初めに俳諧・連歌の世界で一世を風靡し、松尾芭蕉をはじめ多くの俳人に大きな影響を与えた「西山宗因」。また、鏡町出身で、高浜虚子に師事し俳誌「阿蘇」の選者などを務め、俳号・水竹居を称した「赤星陸治」。2人の存在は、現在も俳句の世界に影響を与えています。
出席者からは、「八代にも文化の素地が脈々と流れているんだなと、改めて思いました」との感想をいただきました。
山下さんは現在、第五中学校の国語教諭。また、ホトトギス同人でもあり、八代に8つある句会の7句会で指南役を務められており、自宅横には「ふる里俳句館」を建て、展示や句会の開催などにも尽力されています。


俳句の世界をひもとく山下繁人さん


森田紀代子さん

記念講演に先立ち、4月に東日本大震災の被災地（石巻市牡鹿半島）で、健康支援活動に参加された市の保健師である森田紀代子さん（高28回生）の報告会が行われました。19日から27日まで、保健師を中心に8名の市職員がチームを組み、避難所や自宅を回り、避難者の心身の健康状態を調査。家族を失い不便な避難所生活の中、多くの人が不眠や疲労感を訴えられ、精神安定剤や長期にわたって専門家による心の健康管理が必要と感じられたそうです。

懇親会のオープニングは、歌劇「カルメン」。カルメン役を間優子さん（高32回生）、ピアノ伴奏を高橋佐知さん（高40回生）が友情出演し、カルメンの恋人・衛兵ホセ役を八高29回生の末廣照一郎さんが演じました。

響き渡る2人の歌声、きりりとした身のこなしが圧巻。場内は、しばし、オペラ座と化しました。


オープニングを飾る歌劇「カルメン」



出席者からは、「オペラを観る機会は少ない。なかなか興味深かった」との評価をいただきました。

同窓会会長・名誉会長のご挨拶、最高齢参加者の緒方基一さん（中学37回生）と佐渡ノブ子さん（高女33回生）への花束贈呈の後、カルメンが投げ放ったバラの花を胸にした福島和敏八代市長（高13回生）の乾杯の発声で宴会がスタートしました。

途中、「歌と映像でたどる八代高校今昔」が上映され、懐かしい場面などに場内が沸きました。

また、八代中学・高女・高校の校歌斉唱がはつらつと披露され、次年度担当学年の30回生の皆さんへ法被の引き継ぎが行われました。

最後は、最年少出席者である成尾善明さん（高49回生）の元気な音頭のもと、声高らかに万歳三唱し、懇親会を締めくくりました。


▲高女校歌斉唱


▲中学校歌斉唱








▲「歌と映像でたどる八代高校今昔」の上映


▲29回生から30回生へ法被のバトンタッチ





幹事学年29回生同窓会

ご参加いただいた方々のお見送りを終え、担当学年の同窓会を八代ホワイトパレスで開催しました。大同窓会が無事に終了し、みんな肩の荷が下りました。

これまで、毎月集まっては「打合せ」という名の宴会。それでも何とか少しずつ形が決まっていきました。当日も、たくさんの同級生が、各地から集まってくれました。忙しい中、遠くから、受付や会場の手伝いだけでもと駆けつけてくれた仲間もいて感謝でした。

久しぶりに会う仲間たちと近況報告や昔話に花が咲き、旧交を温めることができました。再会を約束し、八高校歌斉唱と万歳で締めくくりました。





各支部・地区同窓会からの「お便り」をご紹介します。

関東地区同窓会

関東地区同窓会は、関東一都六県とその近県に在住する卒業生で組織しております。会員はおよそ二千四百名で、一〇回卒の守屋会長、一九回卒の中村事務局長を中心とし、学年幹事会を開催して運営しています。「総会・祝宴」を中心として「クラブ活動」や「任意の飲み会」等などの活動を行っています。

総会・祝宴

今年の総会・祝宴は九月二十四日(土)に明治記念館にて行いました。二三一名の参加で、盛大に盛り上がりました。

しかし開催直前の二十一日に台風十五号(ロウキー)が関東地区を直撃し、電車が運休して多くの同窓生が帰宅困難者となったり、あちこちで被害が出たりして、当番幹事は、ひやひやでした。日ごろの行いのおかげか、同窓会当日は台風一過の晴天で、無事開催できました。

第一部は総会で、木遣り入場から、ご挨拶、祝辞、法曇報告・承認など会の運営報告等が行われました。

第二部から祝宴です。乾杯をしておいしい料理をいただきながら、先輩・後輩入り乱れて再会を喜びながらの歓談です。時には就職や商談などになる場合もあるようです。

今年のアトラクションは、声楽家の本岩孝之(三四回卒、及川音楽事務所)さんと実姉の本岩潤子さんの姉弟による二重唱を中心とした懐かしくも美しい日本の歌の数々でした。

















クラブ活動



現在、「街歩き同好会」「サッカー、ラグビー観戦」「ICT研究会」がクラブ形式で活動しています。

●「街歩き同好会」

八回卒の横田さんが主催される街歩き同好会は人気で、定期的に熊本の関係する名所旧跡などを訪ね歩いています。秋には羽村の阿蘇神社に行きます。

●「サッカー、ラグビー観戦」

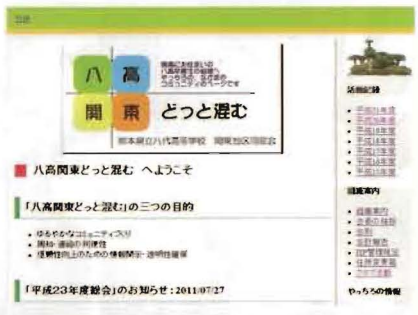
ラグビーはトップリーグ、サッカーはロアッソ熊本戦を中心として観戦会を行っております。ロアッソは国立競技場で、二試合で十点取られる完敗で……(>_<)、来年に期待しましょう。

●「ICT研究会」

広報関係を担当し、ホームページ「八高関東どっと混む(www.85kantou.com)」の運営などを行っています。写真、ご連絡、幹事会の議事録、クラブ活動の案内などを掲載していますので、ぜひご覧ください。なお、ホームページでは住所変更届けも出来ますので、関東地区での異動、転入、転出などの連絡にご利用ください。また最近はfaceboookページの構築運営にトライしています。



今後は、絵画音楽鑑賞、居酒屋探検隊などの活動も計画しています。



●関東地区同窓会は、故郷から最も遠く離れたところにある同窓会です。

会員どうしの付き合いは、遠い親せきのような感覚で、青春時代を八代で過ごした仲間と会うと独特のなごみが得られます。メンタルケアや消息の確認などの意味もあるので、関東地区の皆様は、各活動に積極的にぜひご参加ください。

また、他の地域にお住まいの方は、関東地区にお寄りの際には、同級生などに連絡を取ってみてください。

飲食店などは山ほどありますので、大歓迎で迎えてくれると思います。

関東地区での住所変更は、ホームページ「八高関東どっと混む(www.85kantou.com)」をご利用ください。

私たちの関西同窓会

第20回 総会・懇親会（平成23年6月4日）

傘寿のお祝い（高三回生）懇親会126名、二次会に72名

一本の大きな絆

会長　宮崎　正郎（高一四）

「関西○○同窓会」「○○同窓会関西支部」という名称が多い中、私達は愛着と誇りから八高を頭に冠して『八高関西同窓会』を正式名称にしています。一九八五年十月に発足し二十六年になりますが、設立当初の総会は隔年の開催であり、今年が二十回目の総会でした。

関西では親交のある同窓会から来賓を懇親会にお招きします。『参加した皆で盛り上げ、楽しむ』というコンセプト』が好評らしく、「勉強のために来賓に呼んで」と声を掛けられ、役員会では「呼んでやんなっせ」と先輩方が度量を示されています。



春秋の好シーズンに年二回《八代いさっか会》で奈良、大和路を歩いています。また《八高会ゴルフコンペ》も春秋に開催し、秋は親睦会だけ参加の先輩もいらっしゃいます。上級生が下級生から慕われ尊敬されている、大きな絆が『八高関西同窓会』の誇りです。

初司会を任されて

山本　敦子（高二六回）
中本　伸子（高二六回）

「ご来賓の方々が入場されます。皆様大きな拍手でお迎えください」あれ？会場入り口に来賓の姿が見えない？紹介が早すぎた！私たち二人の司会役はこの様にして始まりました。

二〇一一年六月四日。第二〇回八高関西同窓会総会並びに懇親会が大阪市都島区「太閤園」で開催され、その司会の大役が私たち二人に任されたのでした。

当日は朝から落ち着かず、原稿を何回も何回も確認。会場に着くと既に、先輩の役員さん達が汗を流しながらの準備中。陰で支えて下さっている多くの先輩役員さん達の、同窓会に対しての情熱を感じる。そんな中、進行表に合わせて最終チェックをし、より緊張感が増したところで本番に突入。



会場内の雰囲気や、周囲を見渡す余裕など全くないままに総会の部が終わってしまう。自分を落ち着けるための深呼吸する時間さえない。懇親会の部に入ると緊張感も更にピークに。人間が緊張すると早口になると云うが、正にその通りで、加速した早口をどうしても止められません。それでも諸先輩達のアドバイスや気遣いに助けられながら華々しい会場での大役を、無事に務め終える事が出来ました。

これまで、同窓会に出席する機会がなかなかありませんでしたが、今回会場で新しい出会いや、旧知の友との久し振りの再会などもあり、不思議な出会いを数多く体験しました。人との出会いは面白い！その事を確信した一日にもなりました。

八高同窓生の皆さん！新しい出会いを求めて、これからも同窓会に集いましょう！

ご縁がありますよね！

加藤　京子（高三三回）

関西同窓会への出席のキッカケをつくって下さったのは、部活の先輩からのお誘いでした。

開催のご案内はそれまでも頂いていましたが、同窓会へ出席しても知人は誰もいないだろうと、足が向くことはありませんでした。

ところが、参加してみると周囲は年上の方達というよりも、八高の先輩達（当たり前ですが）と云う表現がピッタリで、心地よい歓迎を受けました。その後は出来るだけ出席を心がけています。

今年からは、役員幹事会へも出席させていただき、幅広い学年層の人たちともお付き合いが出来る様になりました。

故郷八代を離れて三十年。お付き合いの出来る同窓生に巡り合う「縁」にありがたさを感じ、これからもこの縁を大切にしていこうと思っております。

八代高校同窓会福岡支部だより

博多においで！ 八代から新幹線で50分！



2011年3月、待望の九州新幹線が全線開業。博多から故郷八代がグッと近くなった。そして、同窓の星「秋山ホークス」は今年も好調。福岡在住の八高OBたちは「今年こそ日本一へ」と、声援を送っている――そんな熱い博多の同窓会活動を紹介します。【福岡支部】

博多に来たら“むらたそば”！「同窓会ノート」を企画

博多といえば祇園山笠。その櫛田神社参道前にのれんを掲げる「信州そばむらた」の女将、村田（旧千原・S五四年卒）さんは八高OB。同窓会二次会の他“溜り場”的存在だ。「八高の方ですね。どうぞ」と従業員の方も慣れたもの。いつも同窓生で楽しく歓談しています。

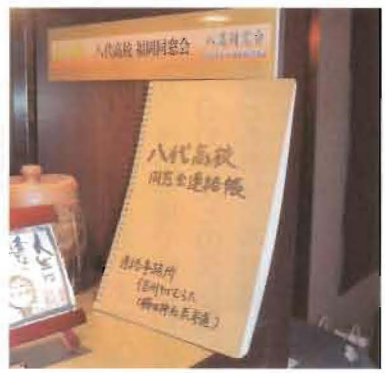
地元熊本に次いで多くの同窓生が集まる福岡。同窓会の目下の課題は、次の世代へどう橋渡しをするのか？ということ。そこで同窓会幹事有志で考えたのが「同窓会ノート」企画。店を訪れた同窓生同士で書き込みしながら交流しようというもので、世代を超えた交流を期待しています。

博多にお越しの際はぜひのぞいてください！



博多と言えば山笠。「信州そばむらた」は櫛田神社の目の前！





ノートはお店に置いています

「八高ですが……」の一言で、ノートで交流する。ちょっとアナログですが、こんなお店や同窓会人情が博多にある、と言われたいですね」と村田さん＝写真。福岡地区の皆さん、他地区の皆さんも、博多に来たら「むらたそば」でぜひノートに記入をお願いします。

“今年こそ日本一！” 秋山ホークス観戦ツアー



昨年は、福岡地区卒業生の誇り、ソフトバンクホークスの秋山幸二監督を直撃インビュー。ペナントレース佳境の中、快く応じてくれました。ということで、「今年は応援に行こう！」と観戦ツアー九月二十九日に有志で企画。この日惜しくも負けましたが大興奮の観戦でした。この会報が出る頃には、きっとクライマックスから日本一の胴上げが……。さて結果は？





昨年の同窓会報では秋山監督へインタビューをしました

福岡支部総会は２月11日！

恒例の福岡支部総会は平成二十四年二月十一日に開催します。会場は完成したばかりの博多駅前のTERASO（テラソ）に移転する「八仙閣本店」の予定です。福岡地区の会員の皆さんへ往復はがきで案内しています。出欠確認のお返事よろしくお願いします。初参加大歓迎です！奮ってご参加ください。

詳しくは八高同窓会ホームページ「福岡支部」で。





八代高校同窓会熊本市支部だより

高19回卒業の土山憲幸さん（ホテル熊本テルサ総支配人）が、平成22年12月22日「くまもと県民文化賞特別賞」を受賞されました。その祝賀パーティが平成23年2月12日熊本テルサで同窓会関係者を含め、多くの人たちが出席して開催されました。







〈熊本市役所「夕葉会」〉



〈高校第21回生〉

私と同窓会と仲間

一九六二年（昭和三十七年）に高校に入学して五十年目、熊本に生活基盤を置いて四十年、八代高校と切れることなく密接な関係が続いている。私たちの学年は、松江城町の蔦の絡まる校舎で三年間を過ごし、旧校舎での最後の卒業生となった。

高校生活三年。一年四組・二年七組・三年二組其々に友人・先輩・後輩が出来、勉学に励むとともに、部活では新聞部に属し（部の先輩として現熊本市支部副会長の村林さん（高一四回生）や益田さん（高一五回生）等と知り合う）体育祭・文化祭やサイクリングを楽しみ、今もなお、仕事・飲食・ゴルフにと絆は続く。

特に高一七回生とは、飲食は勿論、九州内にいる同級生に呼びかけ、年二回、八代や宇城のゴルフ場で実施しているコンペは、西田憲生君の努力もあって十年以上も続いている。

佐賀大学四年プラス二年間熊本を離れ、周辺大学を含めた八高同窓会で、故郷の話題に興じ、青春の希望と挫折を味わいながら、学生運動に参加し、佐世保港でのエンタープライズ、七十年安保でデモ行進。機動隊に突入して泣き叫ぶ同朋。貴重な人生経験であった。

昭和四十七年熊本市役所に入り、中村前会長（高二回生）や道越さん（高一二回生）を中心に八代高校熊本市役所同窓会「夕葉会」（現会長本田公三・高二六回生）の設立に参加した。現在当時の約三倍の八十四名の同窓生が勤めている。

続いて熊本市支部の設立に、有馬さん（高二回生）や達寺さん（高九回生）等の努力もあって、他の官公庁や企業と協力し、市役所同窓会も積極的に行動した。

私も、同窓会名簿に記載されている熊本都市圏在住の同級生全てに、電話かハガキで参加を呼びかけ、盛大な設立総会に多くの同級生と、参加することが出来た。

その確認効果があって、稲田君や内田さん等多くの協力者を得て、今でも熊本市支部の学年の中で、高一七回卒業生だけは常に一・二番の多くの参加者を誇っている。私自身も二十五年十五回開催された支部同窓会を、一回も欠席することなく、毎回、友人や先輩後輩と語ることを楽しみに、青春への回顧も「長生きの秘訣」と思い、広く参加を呼びかけている。

ただ同窓会懇親会に参加するだけでなく、日々の生活の中でも、同窓生の存在は大きい。例えば、今から一番世話になる病院でも、同窓の医師のいるところが安心できるし、そこに行く。個人的な食事会でも、つい頼る。それは広範囲に及ぶ。だから、繋がりが必要と思う。

私が熊本の事務局を引受けてから、いろんな人から電話を頂いた。「熊本に帰ってきました。同窓会に参加するには如何すればいいのですか」「私の母は昨年亡くなりました。同窓会名簿から消して下さい」等々。本部に連絡しながら思う。身近に連絡先があることが安心感を生み、八代との繋がりを感じながら、受話器を取り易いのだろうと。

高一七回生は本年十一月二十二日、妙見祭前夜同窓会を開催します。還暦から五年、少し年を取り、元気に会えれば良いと思う。

昭和四十年三月卒・第一七回生
松岡　博之



〈高校第17回生〉



〔熊本市支部同窓会〕次回予告

期日：平成24年10月27日(土)
会場：熊本全日空ホテル
　　ニュースカイ
代表幹事：木下敬史（21回生）
　　早野壽志（22回生）

愛知地区同窓会

四四八高会

今年の四四八高会は、名古屋市南区の笠寺で集いました。幹事は野球部で活躍した『なべちゃん』です。

一年ぶりに会う同級生は皆、顔の色つやも良く、とても元気でした。

今回は十名の参加でしたが、皆さんに元気と、やる気を頂き、温かい心で、食後は笠寺観音に詣りました。「徳川家康幼少時人質交換の地」という石碑が立っていました。皆、知らなかったらしく「へぇ～、そうだったんだぁ」と感動していました。

幹事さんのお蔭で、今年も一ヶ所、名所旧跡を訪れることが出来ました。「ありがとう!」

同窓会報「道」を読んで、「是非、仲間に入れて欲しい」と、昭和五十四年卒の方から連絡を頂きました。大歓迎で、会えるのを楽しみにしていたのですが、私達より十年も若いのですから現役です。仕事の都合がつかなくて、今年は参加頂けませんでした。日曜日なら良かったのかな?ドラゴンズファンとのことですので、名古屋ドームで逢えるかもしれませんね。

岡田　多美子



岡山地区同窓会

中四国同窓会





岡山同窓会では、六月五日、岡山駅前の会場で八代高校中四国同窓会を開催しました。

岡山近県の鳥取、島根、広島、香川にお住まいの卒業生、約一五〇名の方々へご案内状をお送りし、五名の方からご参加のお申し出をいただきました。

小規模ではありますが、中四国地区の同窓会としてスタートを切ることができました。

また、今回はご参加の返事がいただけなかった方の中で、約三十名の方から次回は、或いはいずれ参加したいとの心強いお返事をいただき、大変嬉しく思っております。今後は岡山のみならず、中四国八県の皆様との絆を強くし、真の中四国同窓会を目指して参りたいと思います。

※中四国にお住まいの卒業生の皆さん、電話かメールで岡山の事務局へご連絡下さい。同窓会に関するニュースをお送りいたします。

大学生歓迎パーティー

五月には、現在岡山県内の大学で学生生活を送る現役学生諸君をお招きして、大学生歓迎パーティを開きました。

若い彼らとの語らいは、永く岡山に住むものにとって、新鮮であり、また、懐かしい「八代」や「八高」の話で多いに盛り上がりました。



暑気払い

七月末、屋上ビアガーデンに有志が集まり、早々の暑気払いを開きました。

これも又、岡山同窓会の年中行事で、冷たいビールを掲げて「乾杯」楽しいひと時でした。





他に新年会や忘年会、ゴルフ愛好家が集まってのゴルフコンペ等、一年中楽しい企画を行っています。

事務局（吉田方）　☎ 086-276-3979　Eメール mic-y@ff.iij4u.or.jp

大分地区同窓会

平成二十三年七月十日、別府の花菱ホテルにて、諸先輩から承継している大分地区の八高大分同窓会を、開催しました。臼杵・日田・中津・国東・別府・大分市内から、大分県幅広くなじみのある顔、あたらしい顔、皆どこか八高の顔が集う。高三回生、高八回生から～高五一回生幅広く、計十五名の同窓生。砥上会長の身振り手振りのユーモラスな八代弁での思い出話。それぞれの参加者の飾りのない気ままな話や大分市の美術館で開催されていたテオ・ヤンセン展の入場券の希望者早い者得のプレゼンテーションで盛り上がりました。最後は次の会合をどうするかで、楽しみを膨らませて散会しましたが、盛り上がりの頂点は、残してありました。帰りの狭いエレベーターの中で、先輩が、八高の校歌、「道」をご存じでないと言うことで、乗り合わせた皆さんが歌ったこと、かも知れないです。

八高大分同窓会

事務局　松本宏次

山口地区同窓会

山口県同窓会が発足します。

山口県にはこれまで八代高校同窓会はありませんでしたが、岡山と大分に同窓会が設立されたのを知って、山口にもできるのでは、と思い立ちました。

まず、今年一月に宇部市・山陽小野田市在住の同窓生十一名にご案内を出して、『同窓生の集

い』を開きました。小雪舞う寒い日でしたが、高五卒から高二十六卒までの五名の参加がありました。初対面であってもすぐに打ち解けるのが同窓会のいいところ、予定の二時間を過ぎても話は尽きることなく、一時間もオーバーしてしまいました。その席で、同窓生の輪を山口県全体に広げようと話がまとまり、六月に再び四名が集まって準備委員会を作り、段取りを話し合いました。七月にもう一人山口市在住の高十四卒の山下鐵洋さんにも加わっていただいて、山口県同窓会設立総会の準備を進めてきました。準備に当たっては、岡山同窓会の吉田高範さんにいろいろと助言をいただきました。

そして、今年十一月十二日に設立総会を開催することになりました。これについては、『道』の次号でご報告致します。

平成二十三年一月十五日の『同窓生の集い』出席者

（高五）村島靖彦・（高八）山口久雄・（高十八）重田千恵子・（高二十七）中村裕子・（高二十六）西島洋一
重田千恵子（高十八回）



学年同窓会だより

八中44回卒

昭和20年卒

八中四十四回生（通称獅子会）について

昭和六十年四月、卒業四十周年記念同窓会を開催（恩師含百四名）するに当り発起人（以後世話人という）を決め、以来還暦会など各企画を開催してきましたが、平成十五年十月十日卒業五十八周年記念同窓会（恩師含六十五名）を最後に任務を終えました。当初二十三名の世話人も現在十三名となり、夫々八十五才前後で体調の衰えが見られます。世話人としては同級生の情報収集は続けるようにしており、毎年の例会だけは欠かさず実施してきました。昨年までは新年夕食会でしたが、世話人も高齢のため会合の安全を考え、今年から新年昼食会に変更し、去る二月十三日新年会を実施しました。（八名出席者写真）

尚、私共の卒業時期は戦争の真只中で学校からの卒業記念誌の発行はありませんでした。そこで卒業四十周年と卒業五十八周年の記念事業として独自に同窓会記念誌を発行し、全員に届けました。今、往時の活力がなつかしく、年老いても気を強くしてすごしたい。

八中四四回　郡　和之

（前列右より）松田　敏雄　橋口　敏夫　萩本　静夫　上羽　和衛
（後列右より）廣松　公房　郡　和之　森　精一　澤井　元生



八中45回卒

昭和20年卒

懐かしの「熊本クラス会」より

折角の原稿依頼に古い資料を繙くしか術がない現状です。ご容赦ください。

記

八代中学「四五回熊本会」報告

（平成十五年十一月一日作成）

一、開催月日
　：平成十五年十一月八日(土)
二、場所
　：熊本市「ホテル日航熊本」
三、出席者：二十四名
四、行事の状況



その日、十一時頃、八代組十名余、世話役早川精一君の玄関口出迎えを受けロビーに落着く。早や宝塚から秋永卓郎君の顔、熊本組もおいおい集まり賑やか。上階の岡村宏一君の関係「熊日倶楽部」にくつろぐ。十一時五十分会場「あやめ」にて受付。（浜田昭三君と高橋）会費七千円と引換えに欠席者のメッセージ付き出席者名簿を手交。各人胸に名札をつけて円卓に着く。十二時、記念写真（村上正人君）田口嘉郎君の進行により開会。物故者への黙祷、次いで事務局より経過報告。今回熊本開催に当たり、体調不全な今田直君との話し合いを含め、かねて熊本学年会を熱心に世話し、今回も呼びかけは勿論本日開催までの世話全般をいただいた早川君、又岡村君の支援があったことを伝える。あと早川君により熊本在住の同輩諸兄の状況がユーモアたっぷりに語られた。車椅子介助つき（息子さん）参加の今田君から「感無量」の謝辞が述べられた。

乾杯：森本常雄君の音頭。開宴、ビールを汲み合い各々混じり合って近況や思い出話に花が咲き、旧交を温めるに豊かな時であった。十四時閉会。一同再び「熊日倶楽部」でコーヒーを味わい憩う。十五時、再会を約し解散した。

以上、事務局　高橋　榮　記

高女33回卒

昭和12年卒

思い出

昭和八年新築された三階建の二階が一年一組五十五名の教室でした。八月に落成式展覧会が開催され、都久志会員や父兄で賑わいました。不景気の世の中で月謝五円は米俵二俵分で、勉強させてもらう親に感謝一ぱいでした。学校生活は楽しく、一流の文化人藤原好江、辻　久子、三浦　環とこの年になっても歌声、音色、身のこなしは忘れられません。女先生は和服袴でした。北先生は若く美しく、絞り羽織姿はマネキン人形のようでした。三年間は作法指導の植谷先生担任で、厳しい総ての躾は現在までの私の生活の宝です。当時から見ればバアちゃん先生です。髪型は低い二百三高地結でした。女先生が洋服着用されても当分袴姿でしたが、式日洋服で登校されまして、私達は驚きました。勇気が入った事と思います。「ひやかしや褒める言葉は出ず、笑顔と拍手で喜びまし

た」先生は独居生活で、時々辻銭湯で逢った時は、背中を流して上げました。北先生は、八幡町の慈恩寺の墓に眠っておられ、植谷先生は何処へ眠ってと思うこの頃です。

佐渡ノブ子

高女44回卒

昭和23年卒

同窓会の度に必ず返事を下さっている震災地、石巻市在住の「横山陽子」さん、高女四四回卒、担任・大堀先生を思い出すも連絡もつかず大変な災害に遭遇されていらっしゃるのだと、はやる気持ちを電報電話局や、郵便局等にて調べ、やっと本人ともお話しが出来ましたが、想像を絶するものでした。

もとの家は流され、長女は行方不明、乗用車中で五日間もすごし乍、やっとの思いで同居されている長男さん宅までたどり着いて、今は病院通いをし乍過ごしておりますと涙ながらのお話しでした。

消息も分かったこととて、殿二会代表・平岡尚道さんより何かお見舞いでも、気持ちだけでも伝えようと仰云っていただき、私達は当時男女の交流もなかったのにと思いましたが、ご厚情に有難く感謝致し乍、女子部役員五名分を併せて送らせていただきました。

横山陽子さんの快復と、一日も早い復興を祈念し乍……。

佐野　利江

八高3回卒

昭和26年卒

『傘寿の祝い』

全国の会員諸氏へ発送した案内状は二一五通。

もっとも、これは過去十四回開催した『からいも会』で、初回からまったく出席無し、あるいは返信無しの分及び還暦祝賀会以降も出席がなかった人たちを除いた数でした。

直前までに九十九名の出席申し込みがあり、この分ではあと一名で一〇〇だ！との胸算用が、当日になってみると急な体調不良とこれに加えて大雨による交通途絶のため結局九十名出席という結果になりました。

でもマア、数え年八十歳ということでは、全国からの参加者九十名とは大成功の部類だということになりますね。

会長代理（会長は当日病気欠席）の挨拶、物故者への黙祷、経過説明のあと開宴へと進み、恒例の校歌（旧制中学校・同女学校）斉唱。それぞれのグループがそれぞれに話の花を咲かせ、その後約二時間で閉会となりました。

全国規模の会はこれをもって千秋楽とし、今後は各地区ごとに「地域別からいも会」が永久に？続くことを期しながらの別れとなりました。

吉塚　申一



八高5回卒

昭和28年卒

二八会のこと

昭和三十四年か五年のある日、県教委に勤める窪田君から、熊本市勤務または在住の同級で飲もうという電話があった。その夜集まったのは五・六人、大いに盛り上がり、毎年定期的に集まろうという事に、会を「二八（にはち）会」とすることで衆議一決、本家二八会の誕生です。



当初、幹事を廻り持ちで会を進めて来ましたが、私（宮本）が幹事をしようということになり、以来約四十年になります。この間約五十年、同じ会場で会を開いた事はなく「今年の会場は？」と皆楽しみにしていたのではと思います。私も喜寿の声を聞き、幹事を引退することにしました。幸い幹事を引き受けてくれる人がいて、会を続ける事が出来ます。会の人数も、寄る年波には勝てず、現在三十人程に減っていますが、数年前から八代から本部役員の阿部さんが同窓会活動の報告を兼ねて参加されています。また、上天草市からも参加希望があります。同級生の皆様、ふるってご参加下さい。お待ちしています。

宮本　亨

なお、お問い合わせは、本年幹事・窪田学、安藤鎮三、氏家弘隆各氏又は宮本亨まで。

八高6回卒

昭和29年卒

最後の同窓会

第八回卒業（昭和二十九年三月）同窓会を平成二十三年五月十八日に藤門先生をお迎えして開催しました。

遠くは山形県天童市より、また東日本大地震の被災地である宮城県仙台市からも参加があり、最後の同窓会ということもあって、総勢百四十八名という多数の人が一堂に会して大いに盛り上がりました。

会が始まる前、同級生の物故者と東北の被災地で亡くなられた方々の冥福を祈り黙祷を捧げました。

写真撮影は人数が多いということで二グループに分けて写すことで二グループに分けて写す



ことにしました。
私たちは新制中学校卒業生として初めて入試が行われた学年で、希望に満ち溢れて〝った〟におおわれた校舎で勉学にまた運動に励んだものです。
卒業して五十七年になりますが、今まで九回の同窓会を開催してきましたが、百二十名を切ったことがありません。本当にうれしい限りです。
毎回のことですが、当日の午前中に希望者のみでゴルフを楽しんだ人たちもいました。最後になりましたが、東日本大地震の被災地への義援金として、三万二千円を熊本日日新聞社を通じて送り届けました。(熊日新聞、五月二十七日掲載)
被災地の皆様が一日も早く元気で生活できますことを心よりお祈りします。

金井　昌康

八高10回卒

昭和33年卒

湖北・若狭・丹後半島で「みどりの風」を―

五月九日、大阪なんばを出発したバスは途中大阪空港で熊本からの飛行機組を新大阪駅で新幹線組をそれぞれ乗車させ名神高速道路を一路彦根を目指す。
彦根市は井伊家三五万石の城下町。名古屋組と合流して彦根城のお堀や石垣を眺めながら彦根キャッスルホテルで昼食。あざやかな朱の器に盛られた「鎧弁当」には湖国の多彩な味が詰まっていた。
バスは琵琶湖の湖面を撫でる柔らかい西風をいっぱい受けながら「さざなみ街道」を秀吉出世城と称される長浜城歴史博物館へ。
ここ湖北は、室町時代末期から安土桃山時代にかけて信長・秀吉の天下統一の舞台となった地。展示案内のガイド長浜城一門衆から宗教や秀吉と長浜に関する展示物と特別展NHK大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」の説明を受け、その歴史認識を新たにする。
バスの右窓に伊吹山。左窓には竹生島を遠望して程なく福井県。若狭湾の荒磯には日本海の硬風が弾け白波が観える。程なく三方五湖。標高四百メートルの梅丈岳山頂公園へはリフトとケーブルが並行。展望台から水月湖・日向湖・久々子湖・菅湖・三方湖の五湖と日本海がワイドに見渡せ圧巻。「五木の園エリア」には地元美浜町出身の演歌歌手・五木ひろしの「ふるさと」の歌詞碑。レコード盤に手を触れると♪メロディーがながれる。
初日の宿は水月湖の湖畔に建つ若狭町営の観光ホテル水月花。目の前に広がる湖面を掃かれた水面の風と湖畔の新緑が歓迎してくれた。
「みどりの風」を求めた二泊三日のバスツアーの行程は、参加者一十九人を乗せて降雨の中を十日・十一日と舞鶴引揚記念館・天橋立・丹後半島・竹野海岸・城崎文芸館・コウノトリの郷公園・出石…へと続きました。
来年の「みどりの風」は香川県へ。五月七・八・九日は壺井栄の名作「二十四の瞳」の舞台「小豆島」と源平合戦の古戦場「屋島」を訪ねます。五月はぜひ関西に集い下さい。

関西三三会
幹事／橋口敏昭



八高8回卒

昭和31年卒

八高八回卒の現況

昭和三十一年四〇七名が卒業し、来年七十五歳を迎える事になります。何と月日の速さ、光陰矢の如しです。生きている事に感謝したい。八高卒後五十七年（四十の厄入り、六十歳の還暦、七十歳の古希開催）学年同窓会を開催してきました。その毎に一人二人欠けて物故者約六十人、淋しいかぎりです。しかし未だ現役で生業として頑張っている人何十人もいる、どちらが良いのでしょうか。現住所が判明出来ない人が数十名いるのでこの機会にわかる人教えて欲しい。

東京近郊在住同窓会、熊本市同窓会二年ごとに開催され、盛況である。八代在住も負けていない、毎月六日に〝六日会〟と称し八代高校同窓会報に掲載しているように、四十年間続いている。同窓会とは、元気で思い出話に浸り、明日の糧にすることである。
各諸氏の長寿の取り組みの情報が欲しい。参考にしたいものです。我々の高校時代の修学旅行は女性だけでしたが、機会が有れば、その当時の日程で男子だけで旅行したいものです。
最後に七十五歳八回卒同窓会の案内を記す。
期日は平成二十四年五月十九日(土)に予定しています。
全国の八回卒生、八代に集まろうではないか。もう後がないぞう?

松永　学

八高12回卒

昭和35年卒

珊瑚会

今回は、これ迄三年毎に高校時代果たせなかった男女一緒の夢の修学旅行を実施してましたが、今年は皆が満六十九才を迎えた後の四月十五日に古稀同窓会を開催しました。締切三日前突如として東日本大震災が起こりこの様な折、古稀の祝とは言え開催すべきかどうか随分悩みましたが、役員で検討の結果内容を自粛して予定通り開催する事になりました。
当日は一〇六名の参加があり久しぶりの再会。又卒業後初めて参加する人等もあり学生時代に返り昔話に花を咲かせたり、各自の近況を語り合う等、終始会場は大盛況で大変有意義な同窓会でありました。又、我々の喜びの反面この度の大震災で亡くなられたり、行方不明の多くの方々に対し開会前、黙祷を捧げご冥福をお祈りし、会場には被災地の方々に対し一日も早い復興と元気になっ



て欲しいと義援募金を集め、集まった七万三十円を十日後、熊日新聞八代支社を訪問し寄付を致しました。

清藤　平治

八高15回卒
昭和38年卒

八高一五回卒同窓会



今年五月二十一日（土）に、八代ロイヤルホテルで同窓会を実施しました。千葉県や東京都からも参加があり計五十二名でした。東日本大震災があり大変な時期でしたが、旧交を温め久しぶりに会う同級生の絆を確かめ合いました。

大地震の液状化現象で家に被害があった同級生の話では、修理するのに相当な金額が必要とのことでした。大地震の余震で毎日の様にゆれて震度も大体わかるようになったと話され、「でも八代はゆれないからいいなぁ」とのことでした。

会は、盛り上がり、皆で校歌を歌ってお開きになりましたが、まだ話したりない飲みたりない人も多く、同級生の店もいっぱいになりました。二次会、三次会と八代の夜を堪能しました。

次の同窓会は、古稀の時になるかと思いますが、詳細は未定です。クラス幹事の皆様にこの紙上を借りてお礼申し上げます。

白石　國光

八高16回卒
昭和39年卒

八高一六回卒「石垣島に集う」

「八高二九会」は、一年に一度、各地区幹事の持ち廻りで、独自の企画を立て活動しています。三年前、「博多祇園山笠」と九州国立博物館見学、そして博多湾ディナークルーズを楽しみました。（五十八名参加）

今回は、昨年六月二十一日～二十三日に「石垣島ツアー」を実施。ハワイからの一名を含め、二十七名が参加。南の島のエメラルドグリーンの海が、私たちを迎えてくれました。八重山の大自然に抱かれ、絶品の料理と弾んだ会話で至福の時間（とき）を過ごしました。元村　賢君の店「舟蔵の里」での、二夜に亘る宴会の盛り上がり方は最高でした。初日は、伝統舞踊と三線に合わせての歌、そして全員参加のカチャーシャ。舞台上は、笑顔と熱気で溢れました。翌日は、テラスでハワイアンバンドのライブ演奏とフラダンスの中で、石垣牛のバーベキューを堪能しました。最後は、肩を組んでの「校歌」の大合唱でした。

初参加の竹之内（長尾）睦子さんは、「とても楽しかったです。これからもずっと参加したい」との談。来年は、東京で九月に開催予定です。

竹本　英明



八高18回卒
昭和41年卒

八高一八回卒の同期会を「さしより来てみなっせ！」のかけ声のもと、四月二日に計画し、あとは開催するだけとなっていた矢先の三月十一日に大震災が発生してしまいました。どうしたものかと幹事の皆さんと協議し延期する事としました。

各幹事が手分けして延期の旨を連絡したところ「折角の機会だから、何らかの形で集まりたい」との要望を出された方々がおられましたので「同級生有志の集い」を実施しました。出席者は十四名、関東以外の方も二名駆けつけていただきました。四十五年ぶりに再会した方も数多くおられ懐かしさに彩られました。ある男性は片思いだった初恋の人に四十五年ぶりに再会し「あたは、おっが初恋の人だったっぱい。知らんだったかな？」と初告白？したところ、その初恋相手の女性は「あら、そぎゃんだったつね。ちっとん知らんだった。そぎゃんこつは、そん時ゆうてもらわんば、わからんもん」との、おてもやんの世界の会話に出席者一同が大爆笑。このように、方言を交え故郷や家族・思い出や近況等、楽しい話に花が咲き続け、長い時間があっという間に過ぎてしまいました。多数の出席者から「今日は楽しかった」、「元気をもらった」等の言葉があり、ほのぼのとした気持ちになり、同級生の存在の大きさを再認識しました。なお、延期された同期会は「さしより来てみなっせ！やりなおし」として今秋実施しました。



関東地区に住んでいる同級生有志の集まり
2011年4月2日には、有志で集まりたいという方々がおられましたので、魚住さんがオーナーである「サングリア」に集まりました。

田村　一夫

八高19回卒
昭和42年卒

平成二十三年度活動報告

今年は、一月九日（日）「新春初笑い新年会」を「鰻新」で開催しました。二四名の参加で、昨年一年間のイベント記録ビデオを見ながら、お酒を酌み交わし親交を深めました。健康であることとお互いの支え合いを語り合いました。

三月二十七日（日）の「春のイベント」は、七組の赤星君がコーディネイトした、「仰烏帽子山福寿草花見　登山」を行いました。男性のみ九人の参加でしたが、北側の残雪を見ながら、仏岩をまわり、南側のカルスト庭園を歩き、遠く人吉盆地を眺めながら、昼食をとりました。いずれの道沿いにも福寿草が満開で、黄色い花をつけていました。



（例年に比べ、寒さで一週間ほど開花が遅れたのが、幸いしたようです。）不慣れな初心者を、赤星君と村山君が前後でサポートしてくれ、無事登山を終えることができました。下山時には、雪どけで泥スキーの体験もできました。帰りには、五木の道の駅にある「五木温泉」で汗を流し疲れをとりました。予定時間をやや過ぎて、集合場所の東陽町の「菜摘館」駐車場に無事帰着。お互いの健闘をねぎらいながら解散しました。

また、五月十四日(土)には、女性も楽しめる登山として、六組の村山君にコーディネイトしてもらい、「久住山登山」を行いました。女性一名を加えた7名で、九州本土最高峰の久住山（一、七八七m）を含む、中岳（一、七九一m）、天狗ヶ城（一、七八〇m）の一、七〇〇級の三山を、村山・赤星両ベテラン登山家のサポートを受け、見事に制覇しました。県民運動公園中央駐車場でのハプニング・コーヒー事件や山ガールとの交流など話題一杯でした。極めつけは、黒川温泉「のし湯」。疲れもとれ、至福の時を過ごしました。

さらには、ミヤマキリシマを見に、六月四日(土)には、「平治岳山登山」が行われました。（残念ながら、八代組は参加できませんでした。）

一九道の会事務局長　簑田正一

八高28回卒

昭和51年卒

釜山で誓った友情



平成二十二年度の八代高校同窓会担当学年であった私達は、今でも交流を深めており、毎月一回、同級生が経営している「居酒屋」に集まっています。参加者は約二〇名ほどですが、すごく仲が良く、年一回の旅行も計画しています。二十二年は、あいにく台風に見舞われ中止になりましたが、二十三年は無事、計画通り「韓国(釜山)」へ行くことができました。同級生の旅行の楽しさは、気を使わなくて済むことです。少人数の参加でしたが、二泊三日の良い思い出になりました。

また、東京での学年同窓会が毎年二月に、熊本市でも半年に一回行われており、なんと、そこへ、私達八代のメンバーも駆けつけています。自分達で言うのもなんですが、五十三歳のパワーに驚きを隠せません。これからも健康に注意して、五十代を有意義に過ごして行きたいと思っています。

中村　邦子

八高30回卒

昭和53年卒

「やあ、久しぶり！」「元気？」「ねえねえ、あの人だーれ？」笑顔とともにあちらこちらで交わされる言葉。八月の第四土曜日に毎年開催されている大同窓会に集結した第三〇回卒の様子である。卒業して三十四年が立つ今、私は勿論の事、失礼ながら同窓生の顔や体もそれなりに変化を遂げている。しかし一旦言葉を交わすと、気持ちはすぐに三十四年という月日を駆け戻り、あの日に帰る。やっぱり同級生はいいなぁ！こんな思いを持ったのは決して私だけではないはず。その証拠に、二次会、三次会、四次会と友との夜は永遠と続いた。

「え、私には案内が来ていない！」とご心配の三〇回卒の皆様へ。

実は毎年行われている八高全体の同窓会を、来年私達が取り仕切らなくてはなりません。今年はその引継ぎ式があり、地元を中心に五十名ほど声をかけさせてもらいました。来年は幹事学年として責任重大であると共に、私たちの学年の同窓会も開催します。皆様にご協力をお願いするとともに、一人でも多くの同級生にご参加いただけるよう願っております。

二〇一二年八月二十五日(土)
「八代ロイヤルホテル」でお会いしましょう！



米本　直美

八高33回卒

昭和56年卒

卒業して三十年

私たち三三回卒同級生は、今年一月二日に八代ロイヤルホテルにて三十年目の同窓会を行い、恩師六名を含めて一六五名の参加をいただきました。

福岡壮一代表幹事長の挨拶で懇親会が始まり、恩師の先生方からご挨拶をいただき、近況等について語っていただきました。



また、私達の同級生である福岡ソフトバンクホークスの秋山監督からは、同窓会を祝福するメッセージをいただくとともに、提供いただいた多数のホークスグッズの抽選会を行い、グッズが当たった方は、大喜びするなどスターからのサプライズで会場は大変盛り上がりました。

私たちは、卒業後三十年という長い時間の中で、それぞれが喜び、悲しみ、苦労など様々な人生を歩んできたと思いますが、同窓会ではそういうのも忘れて、昔懐かしい八高時代の話がつきず、記念写真を撮るなど、あっという間に時間が過ぎたように思います。

当日は、初めての参加者もあり、懐かしい顔、最後まで思い出せなかった顔もあったと聞いております。

今回の同窓会に参加いただいた同級生と、運営に協力してくれた幹事の方々に感謝するとともに、皆の健康を祈りながら、また美味しい酒を飲み、語り合う日が来ることを楽しみにしております。

稲本　俊一



八高座談会2011年

8月17日(水)14:00　於 八代ロイヤルホテル

裸足からズック、もんぺからスカートへ！
戦後日本の復興期を駆け抜けた青春!!
名実ともに文武両道。八高の黄金時代がそこにあった。

出席者（敬称略）

藤門　勁先生（中43回）（昭和23年から昭和37年在職）
竹内　頼夫先生（昭和30年から昭和40年在職）
稲津　一明（高5回）
阿部　淳子（高5回）
大原　友春（高6回）
岡田　佼子（高7回）
岡本　和子（高8回）
政木　信子（高9回）
近藤　教子（高10回）
村上満智子（高11回）
竹本　翠（高12回）
佐藤　好助（高13回）
村林　孝彦（高14回）
馬淵　睦揮（高15回）
司会：岡山　元紀　八高同窓会　会長

昭和二十五年 新制八高入学一期生誕生!! しかし、戦後の復興期、物資が乏しく、制服もなく 下駄ばきだった。

（司会） 本日は、蔦の絡まる旧校舎で学ばれ、古き良き時代の八高を築かれた、八高五回卒から十五回卒の皆さんにご出席いただきました。五回卒は、八高になってから初めての入学式を経験された新制高校第一期生で、この年に運動会が男女共同で行われるようになり、女子の修学旅行も再開され八高の歴史で一つの節目の学年にあたりますね。また、今回は当時の恩師であられる、藤門・竹内先生のお二人をお迎えし、思い出話に花を咲かせていただこうと思います。よろしくお願いします。


藤門　勁 先生


竹内　頼夫 先生

（藤門） 私は、旧制八代中学を卒業後、広島の高等師範で学び、新制高校の教師となり、八高が初任で昭和二十三年から三十七年の十四年間教師を勤めました。初任は、当時を思えば、終戦後間もなくの頃で、物資が乏しく、制服もありませんでしたし、裸足で登校してくる子供もいました。その後、経済もだんだんと良くなっていき、五回卒から女子のみの修学旅行が再開され、十三回卒からは男子も加わり、男女一緒の修学旅行が始まりました。五回卒から十五回卒の十年間振り返ってみると、「裸足からズックへ、もんぺからスカートへ」という時代でしたね。

（竹内） 私は、生まれも育ちも広島でした。昭和三十年に関門海峡を渡って、八高に赴任しました。当時は、工場に活気があり、八代は工業都市なんだなあという印象を持ちましたね。八代弁には苦労しました。修学旅行に二回行きました。一回目は女子のみで、熱海の海岸を散歩した記憶があります。当時の八高には若い先生が少なかったので、可愛がられたり、鍛えられたり、良い経験を積むことができました。

（阿部） 私は、新制中学から入学しました。先輩方がずいぶん大人に見えましたね。非常に混乱した時代で制服はありませんでしたし、たいていは、下駄履きで登校していました。入学時は十五クラス六〇〇名でしたが、卒業時は四八〇名に減っていました。

（稲津） 今から六十年前に八高に入学しました。通学は下駄履きで、鼻緒が切れたり、雨の日は、裸足で登校していました。鞄もなく、教科書は風呂敷に包んだり、紐で括ったりしていました。授業は、女学校と旧制中学校の校舎を行ったり来たりして受けていました。体育の授業で、武道必須になり、柔道で鍛われました。運動会では、仮装行列があり楽しみでしたね。

活発だった生徒自治会活動 騒音問題がやがて新校舎建設の気運に

（大原） 私たちは県が実施した統一入学テストで入学した最初の学年でした。十一クラスありました。私は、生徒会と弁論部に所属していました。昭和二十八年の熊本大水害の時は、生徒会自治会で有志を募り、約一〇〇名で県立第一高校のグラウンド整備にいきました。自治会活動が活発で、議員バッジもありましたね。

（岡田） 私は、七回卒になりますが、昭和四十三年から六十二年までの二十年間八高で世界史を担当していました。二年生の時、図書館ができたのを覚えています。

（藤門） 昭和二十六年の創立五十周年の式典の中で、図書館建設が決まりましたが、県に金がなかったので、建設資金の半分を卒業生からの寄付に頼らなければなりませんでした。当時の中村昌信校長と共に、毎週土日卒業生にお願いに回ったが、半分は集まらなかったようです。ようやく、昭和二十八年に開館しました。このやり方は、後に永碇の新校舎建設の折にも行われました。

（岡田） 新校舎建設の気運の一つに、非常にひどかった騒音問題がありましたね。校舎の前に産業道路ができ、砂利道の上に、大型トラックが往来、商店の宣伝カーの大声など、とにかくひどくて、授業が成り立たなかっ

たです。一級下の生徒自治会長の久野君が、何べんも県の教育委員会や、警察署長に訴えて歩き、その功あって、ずいぶんと静かになったと記憶しています。当時、生徒会活動は活発でしたね。

（佐藤） 私達が二年生の時から、校舎の移転の話がもちあがりました。理由は、騒音と工場が出す悪臭でした。

（竹内） 昭和三十四年に新校舎の期成会ができ、夜はみんなで、寄付金集めに卒業生宅を訪問しました。新校舎は永碇の田んぼの中にぽつんと立っていました。新校舎には、最初は一年生だけが入り、ザラ紙に印刷した試験の問題用紙を松江の校舎から、あぜ道を走って届けた思い出があります。

楽しかった運動会の東海道五十三次、仮装行列

（阿部） 仮装行列では、東海道五十三次をしましたが、ずいぶん時間がかかってました。担任の先生を籠に乗せてグラウンドを一周するのですが、中の先生はずいぶんと揺られ大変だったみたいでしたね。

（岡田） 私たちは、運動会では、東海道五十三次の最後の学年で、仮装行列が始まりました。当時は、大学浪人が多かったせいか「六・三・三・一・四年制の実現」とプラカードを掲げ行進していた人もいました。ビキニ環礁の水爆実験が行われた年で、原水爆禁止のプラカードも目立っていました。

（竹内） 運動会は、梅雨時期に行われていましたので、毎年、グラウンドをぞうきんとバケツで水を吸い取っていました。運動会には立派な櫓が立っていました。生徒会活動が活発で、選挙運動が盛んでした。運動会は、仮装行列が一番の人気でしたね。大変モダンなものでしたね。

（政木） 運動会では、仮装行列が盛んで、保護者も準備を手伝ってくれ、とても楽しかったです。

修学旅行の再開！初めは女子だけでした

（阿部） 再開された修学旅行は女子だけで、金沢へ行ってきました。女子だけの三クラスと他の共学のクラスは希望者のみ参加していました。

（岡田） 私たちも、修学旅行は女子だけでした。先生方から、「行きたい人は自由だ。しかし、大学受験をする人は、行かないほうが好ましい。君たちが行こうが行きまいが、授業は、進めていくので、それでもよいのなら行ってもよい」といわれたので、進学を考えている女子は、ほとんど行かず、女子の半分くらいの参加でしたね。

（岡本） 修学旅行をめぐっては生徒会で「なぜ男子は行かせないのか」と大騒動があったのを記憶しています。結果として、修学旅行は、女子のみ二・三年生合同でおこなわれました。「男子は受験で忙しいし、将来東京に行く機会がある。女子はたいがいが卒業後結婚して、都会へ行く機会がない」というのが理由だったと思います。東京と京都の旅行から帰ってきたら男子からブーイングが起こりました。男子も行きたかったんだなあと思いました。当時は、男女共学とはいえ、学校側としては、風紀の問題をとても注意されていたようです。それが本当の理由だったのでしょう。

（司会） 竹本さん達が、女子だけの修学旅行最後の学年でしたね。

（竹本） そうです。男子も旅行に行きたいという気持ちが強くて、血気盛んな男子生徒が四、五人で校長室に談判に押し掛けました。初めは、校長先生も従来通りの返答で、拒否していましたが、机をたたいて熱弁する彼らに、心を動かされ「よし解った。」と言って許可されたそうで、みんな万歳と叫んで、大層喜んだそうですが、校長曰く「ただし、今年は間に合わん、準備の都合で来年から実施する。」との事で、みんながっかりしたそうです。（笑）何時もその時の話で、同窓会は賑わってます。六十歳の還暦同窓会では、「遅ればせながら、修学旅行をやろう」との事で、東京・熱海の二泊三日の修学旅行を行いました。

（佐藤） 私たちが二年生の時、初めて男女一緒の修学旅行が始まりました。残念ながらサッカー部は全国大会への出場のため参加できませんでした。東京では、十人位でグループ行動ができましたが、案内に東京在住の先輩方が引率してくれました。私たちは、後に八代市長になられた木村健一さん（野球部の都合で、熊高へ編入）に案内していただきましたが、同じ班には現八代市長の福島和敏君がいました。偶然ですかね。初めての男女一緒の修学旅行でしたが、遠慮して男女別々に行動していました。前の年に東京タワーができ、活気がありましたね。修学旅行がきっかけとなり、東京の大学を志望する人が増えたのも事実でした。

文武両道　八高の黄金時代

（司会） 政木さんは水泳部でしたよね。美人の政木さんの水着姿にあこがれて、男子が多く水泳部に入ったと御伺いしています。（笑）

（政木） それはどうでしょうか（笑）。当時、八高にはプールがなかったので　野上の市営プールで練習していました。萩原の鉄橋下の球磨川でも練習した記憶があります。八高のそばの大学饅頭を食べて、毎日練習に通いましたね。（笑）

（竹本） テニス部にいましたが、練習相手の下級生の男子が、後に、徳島で行われた全国大会で優勝しました。今でも当時のクラブ員達と交流が続いています。テニス部で汗を流したことは、青春時代の思い出として、心に強く残っています。

（司会） 佐藤さんは二年と三年の時、一〇〇mと二〇〇mのバタフライで全国優勝され、卒業されてから、東京オリンピックに出場されましたね。その時の日本選手団のユニフォームが八高体育館の玄関に展示されています。

（佐藤） 私は、国体に出場された美人の政木先輩の水着姿にあこがれて、水泳部に入りました（笑）。水泳部の顧問は児玉先生でしたが、担任は、体育の大堀先生でした。先生から「俺のクラスにいたら、心配せず、三年間ズーッと水泳ができるぞ」と


稲津　一明 さん


阿部　淳子 さん


大原　友春 さん


岡田　佼子 さん


岡本　和子 さん


政木　信子さん

言われ、選択科目も先生のクラスに入れるよう変更してもらいました(笑)。野上の市営プールで練習していました。予備に、三楽のプールを使わせていただきましたが、プールが使用出来なかった時には、萩原の鉄橋下で泳いでいました。

(司会) 佐藤さん達の時代は、水泳で全国優勝し、男子テニス部が全国制覇、サッカー部が全国大会出場するなど、素晴らしい成績を残されましたね。

(藤門) それに、東大・京大など有名大学にもボンボン受かった。まさに、文武両道を地で行く時代でした。まさに八高の黄金時代でしたね。

(佐藤) 当時の吉田茂八校長は、事あるごとに「運動するものは勉強もできる」と熱弁を振るわれ、「文武両道」を熱心に説かれていました。本来、八高は進学校であり、他の高校に比べ、運動施設が充実してなかったのですが、生徒が頑張ったんでしょうね。

(竹内) グラウンドは狭いうえに陸上、サッカー、ラグビーと共同で使っていました。水はけも悪く劣悪でした。野球は、野上の野球場で練習していました。ただ、テニスコートだけは立派でした。テニスコートとバレーコートが二面ずつあり、その隣に、バスケットコート、その隣に講堂があり、その隣に武道場がありましたね。

今に続く八高の伝統 ノンポリ気質

(司会) 村林さん達が入学されたころは、六十年安保の時で、全国の高校では、集会やデモが行われていたと聞いていますが、八高はどうでしたか。

(村林) 八高生は、元来ノンポリの気質でしたから、全国の騒動は、対岸の火事といった具合で、なにもしなかったですね。

(司会) 昭和三十五年の十月にあった創立六十周年式典での吉田茂八校長のあいさつの中で、当時の八高生のノンポリ的な気質に対し「八高は、いろんな長所がある半面、八代大学的な自尊心が過剰であり、鷹揚過ぎ、のんき過ぎ、根気強さ粘り強さに欠けることが八高生の弱点である」と指摘されていますね。

(藤門) 旧制中学校のころからその風潮はありましたね。いい意味でも悪い意味でも八高の伝統でした。

青春を謳歌した 蔦の絡まる旧校舎

(馬淵) 私は昭和三十五年に入学しました。文武両道の素晴らしい八高の時代は、前の学年の皆さんで終わりました(笑)。正直入学したころの八高はすごかったです。だけど、私たちの学年は、思いやり、優しさ、団結心にあふれた学年でした。旧校舎の屋上での思い出が強く残っています。みんなで屋上でよく遊びました。サッカーやキャッチボールをしたり、弁当を食べたり、ちょっとした恋をしたり、屋上は、八高生の社交場でしたね。そういえば、便所が一階でしたので、めんどくさくて屋上から用を足した人もいました。懐かしい旧校舎でしたが、私が教育事務所に勤めていた時、新校舎への移転のため取り壊す場面に遭遇いたしました。平成八年か九年だったと思います。クレーンで釣られた大きな鉄球で「ドーンドーン」と崩されていく光景に胸が熱くなりました。旧校舎を懐かしみ、思わず手を合わせました。

(大原) 旧校舎の隣には、白百合学園があり、よく、屋上から手鏡でサインを送っていました。白百合には美人が多かった。(笑)

(岡田) 屋上のへりを逆立ちして歩いていた人がいましたね。

(村上) たいがいの人は、そこを走っていましたよ。危なかったですね。

(竹内) 屋上には、天文部の風速計が置いてあり、建前上は天文部以外の生徒は立ち入り禁止だったんですがね。

(司会) 十六回卒の皆さんから、旧校舎の模型を作ってほしいとの声が上がっています。十六回は三年間旧校舎で勉強した最後の学年ですから、思い出が深いのでしょう。

新校歌「道」の誕生

(竹内) 昭和三十二年に新しい校歌が決まりました。渡辺先生、田口先生と共に、作家の耕治人氏に作詞をお願いに行きました。また、耕治人氏の紹介で新鋭の林光氏に、作曲をお願いしました。歌いにくい校歌でしたが、当時としては、特異的な校歌だったと思います。耕治人氏とは、何べんか飲む機会がありました。良い経験ができました。

(近藤) 三年生の文化祭の時、新しい校歌の発表式がありました。私はコーラス部でしたので、その時歌ったのですが、今までの生徒歌とは違い、歌い辛かったです。式典では、耕治人氏の講演会があり氏へ感謝状が贈られました。蔦の絡まる校舎が好きでした。学校前の産業道路も舗装され、騒音問題は改善されて割と静かだったと思います。当時の八高は、高校生活にゆとりがありました。勉強だけではなく、自主活動も盛んでした。私は、日本舞踊を習っていて、高二の時名取をいただきました。高校生の名取は、八代では最初だったと思います。

(藤門) 天文部と言えば十三回卒が二年の時に、宮崎の高千穂峡で九州の高校の天文部が集まって合宿をやりました。キャンプファイヤーの時、各校の校歌の歌合戦がありましたが、八高からはM君が代表して、真っ赤な顔で新しい校歌を歌いましたが、ほかの高校からは評判が良くなかったですね。八高校歌は特異的で、優しい調べのテンポの緩やかな曲でしたが、他校の校歌はテンポが速く勇ましい曲が多かったからでしょう。

(佐藤) 八高が甲子園へ行って歌う場合、もう少しアレンジした方がいいですよ。ロック調とかいくつかのバージョンを用意しておいてはいかがでしょう。四回卒の作曲家の森岡賢一郎さ


近藤　教子 さん


村上満智子 さん


竹本　翠 さん


佐藤　好助 さん


村林　孝彦 さん


馬淵　睦揮 さん

んに、編曲していただけないでしょうかね。

（大原）森岡さんは、八高時代の練習の際に、グランドピアノを三年間でたたき壊したという有名な話がありますね。

（藤門）関東同窓会の折に森岡君に編曲をお願いしたことがありますが、なかなか実現できませんな。なにせ、大変忙しい方なので。

（司会）ばってん、野球部が強くなければ甲子園では歌えませんからね。

（岡田）春の甲子園に二十一世紀枠というのがあるが、八高の場合、熊高と一緒で、旧制中学初頭から野球部がありましたよね。十九世紀からずーっと野球部があるという事で十九世紀枠というのがあれば出場出来るのではないでしょうか。（笑）

あだ名で作った時間割
男女共学の進展
充実したクラブ活動
大盛会の文化祭
楽しかった八高時代
今も続く同級生の絆は固く

（大原）弁論部で、県の弁論大会で優勝した経験があります。自治会やクラブ活動の実績を買われ、卒業時に、校長から功労賞として八高の校章入りの文鎮をもらい、大事にしています。現在は、同級生の女房と互いに同窓会の世話をしています。今年は一六〇名の同級生が集まり、東日本大震災の被災地仙台から参加してくれた旧友もいました。

（岡本）当時は夜学が盛んでした。英語や数学では、先生の自宅に押し掛けて、勉強していました。当時は、進学塾もなく、大学受験を目指す人は、たいてい夜学に通っていました。

（村上）私たちが入学したころには、男女共学になって久しくなっていたせいか、男女の仲が良かったですね。映画に行ったり、釣りに行ったり、山登りしたり、一緒に良く遊んでいました。私は、男子の制服を着て運動会の応援団をやったり、クラスマッチの駅伝大会では、自転車で伴走したり、内緒ですけどオートバイの後ろに乗ってドライブもしました。お転婆と言われていたかもしれませんが、私は、男女は本来平等であると考えていたので、やってたことはごく普通のことと思っています。男女一緒の修学旅行のさきがけではありませんが、美術部で人吉の林鹿寺で三泊四日の合宿をしました。男女一緒の合宿でしたが、御堂に蚊帳を吊ってみんなで寝ました。楽しかったです。

（政木）水泳部の顧問は児玉先生でした。やさしく、大好きな先生でした。そういえば、八高生は先生のあだ名付けがうまかったですね。

（村上）あだ名の時間割表がありましたね。物理の田中先生は「ぎょうてん」、国語の中村先生は「しゃーしゃー」、体育の大堀先生は、いつもブツブツ言っておられたので「メタンガス」というあだ名がついていました。（笑）

（阿部）クラスマッチではテニス大会がありました。

（佐藤）美術部の正木先生の授業はユニークでした。きれいに描くというより、感性豊かに描くことに重きを置かれる先生で、抽象画的なものが評価されていましたね。読書感想画とかありました。

（村上）そう言えば、音楽を聴いて感想画を描いたこともありました。

（大原）私は、一見から汽車で通っていました。駅からは、産業道路を隊列を組んで八高へ歩いて登校してましたね。汽車の中では、赤尾の豆単を使って、みんな英単語の勉強をしていました。朝早く起きていたので、腹が減って、二時間目の終了後に弁当を食べていました。昼は売店のコッペパン買いに行列を作っていましたね。

（村上）大野から来る友達がいて、朝四時に起きて通っていたそうです。授業が終わると、急いで駅まで行かなければならなかったので、八高の三年間は、全然八代の町を歩いたことがないと言っていました。（笑）

（村林）文化祭が盛んでした。秋に二日間行われていました。私たちのクラスは当時大流行だった、歌声喫茶をしました。藤門先生にお願いして、物理教室をお借りし、暗幕を張り巡らし、照明は、パラフィン紙を貼って、夜の雰囲気作りに工夫しました。物理室の、アンプとスピーカー、マイクを利用し、バッチシでした。コーヒーとケーキを出そうとしましたが、保健所の許可がいるとの事で、歌だけでしたが、大盛会でした。歌声喫茶は、ロシヤ民謡が主体でしたが、私たちのは、流行歌オンリーでした（笑）。私たちの時代には男女共学が定着しており、先輩方が築かれてこられた文武両道に加え、勉強もやり、部活も盛んで、男女も仲良く付き合い、楽しい学園生活でしたね。

（稲津）皆さんのお話を聞いていますと、時代の流れを感じます。年を重ねることに、高校生活をエンジョイされてきたみたいですね。本当にいい時代になりましたね。

（阿部）私たちの頃は、なにもない時代でしたが、年々豊かになり、八高生活も良くなってきたんだなあという印象です。私は、八高に通ったことに誇りを持っています。私たちの時代は、まだまだ、高校に進学する人は少なかったですし、ましてや、女子となるとたいていの人は中卒でした。だから、選ばれてきたんだという気持ちが強かったと思います。入学時には制服を着てくる子はほとんどいませんでしたが、三年生になると、みんなセーラー服を着ていました。一年一年豊かになってきた時代でした。私は高校時代、卓球部でした。今でも続けています。その時の同級生とダブルスを組んでシニアの全国大会に出場しています。八高時代のかけがえのない友達との絆は、今も続いています。



（司会）それではこれで座談会を終わります。本日はありがとうございました。

母校だより

開校三年目を迎えて

八代中学校　教頭　里永典隆

八代中学校完成年度

早いもので、八代中学校も開校三年目を迎えることになりました。地道ではありますが、一歩一歩新しい道を切り拓きながら新しい伝統の礎を築いています。平成二十三年四月八日、三期生の入学とともに、今年度、八代中学校は一年生から三年生まで全学年が揃い、中学校全校生徒も二百四十名となりました。



第三回入学式（中高新入生代表）

『輝』鳳雛祭（体育の部）

初めて六学年が揃って実施された鳳雛祭（体育の部）。『輝』をテーマとし、晴天の中行われました。

特に、今年度は、中高六学年全校生徒千五十五人で行われたマスゲーム、中学校三年生応援団による応援演舞などが行われ、更に充実したものとなりました。同窓会から寄贈いただいた緑色のテントも六張りとなりました。心よりお礼申し上げます。



全校生徒1,055人によるマスゲーム



中学生応援団による演舞



中学三年生応援団（前列）と中学校全校生徒一四〇名

栄光の足跡　本校生の活躍

開校二年目も、本校生は様々な分野で活躍しました。特に全国中学生人権作文コンクールにおいて、現二年生井上由紀子さんが熊本県最優秀賞、全国大会においても法務副大臣賞を受賞、同時に学校賞もいただきました。熊本県科学展では県教育委員会賞、熊日ジュニア賞を受賞し、全国学生科学賞全国審査への出品となりました。また、運動面でも県中体連陸上大会で二年男子百ｍで三位入賞、今年度の中体連でも剣道、水泳の二種目で県大会へ出場しました。文武両道を旨とする本校の精神に則り、活躍する本校生に今後とも応援をよろしくお願いします。



中学生人権作文コンテスト全国表彰

第３学年立志式

七月十五日、中学三年生立志式が行われました。中学三年生は、中体連総体も終わり、高校進学へ向けての時期に入るとともに、「養成の時」から「充実の時」に入ります。これまでの二年間に培った力を更に充実させる時期になります。本校では、意を新たにする契機として、この時期に立志式を行います。

式では、衛藤繁校長先生から三年生への激励の言葉をいただいた後、三年生一人一人が立志の言葉をステージ上で発表しました。一期生の更なる活躍に期待したいと思います。



立志式の様子（7月15日）

鳳雛祭（ほうすうさい）（体育の部・文化の部）について

文責　高校生徒自治会顧問　山崎　恒久

鳳雛祭について

長らく『八高祭』として親しまれてきた行事は、平成二十一年度から県立八代中学校が併設されたことに伴い、『鳳雛祭』として生まれ変わりました。平成二十三年度の鳳雛祭は体育の部が五月八日に、文化の部は九月十一日に開催されました。

鳳雛祭（体育の部）について

平成二十三年度の鳳雛祭（体育の部）は、『輝（かがやき）』をテーマに掲げて行われました。

このテーマは「一人ひとりが輝く鳳雛祭にしたい、中学一年生から高校三年生までの完成年度であり、より一層輝きを増した鳳雛祭にしたい」という生徒たちの熱い思いを反映したものです。

六学年の生徒が一斉に参加するマスゲームは、今年も若いエネルギーと躍動感に溢れた素晴らしいものとなりました。女子生徒による華やかなダンス、男子生徒によるピラミッドやタワーなど、生徒たちは練習の成果を存分に発揮してくれました。



三年生が中心となって練習に取り組んできたフリーダンスや応援合戦では、ダンスに「和」の要素を取り入れたり、団席と一体になった応援演舞を披露してくれたりと、生徒たちは見事なパフォーマンスを見せてくれました。団席後方に掲げるシンボル（総看板）も素晴らしい出来栄えで、体育の部を華やかに演出してくれました。

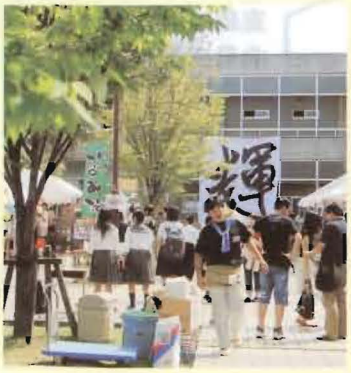
中学生も全学年が揃い、三年生は新種目の騎馬戦で熱い戦いを繰り広げました。また、応援合戦においても、高校生に引けを取らない素晴らしい演舞を披露するなど、八代中学の歴史に新たな一歩を刻んでくれました。

鳳雛祭（文化の部）について

文化の部は、メインテーマ『輝』に加えて、サブテーマ『The New Light is shining～新たな光がきらめく～』の下、行われました。サブテーマも、中高一貫教育完成年度に際し、八代高校・八代中学校が新しいスタートを切る決意を表したものです。

開会行事では、ピアノ演奏、書道部、詩吟、放送部、演劇部の素晴らしい発表がありました。また、フリーステージやミニステージでは、ダンスや歌などで、生徒たちが、普段とは一味違う個性や才能を発揮してくれました。

各クラスと文化部は、展示テーマ『愛』にまつわる、工夫を凝らした展示を作り上げました。写真アートやポエムの展示、映画上映などに加えて、教室での演劇上演や、体育館入口に入場門を設置したクラスもあり、見る人を楽しませてくれました。





文化部も日頃の活動の成果を様々な形で展示し、八高生・八中生の文化レベルの高さをアピールしました。

恒例の食品バザーでは、二年生の七クラスが多彩なメニューを提供し、食物研究部も早朝からカレーライス作りに励んでくれました。また、ＰＴＡの保護者の皆様にもご協力いただき、今年も冷やしうどんや合格弁当などが好評を博しました。

閉会行事では、合唱部が透明感のある歌声を体育館に響かせ、中高の各吹奏楽部も見事な演奏とパフォーマンスを見せてくれました。当日は、暑さが残る天候にもかかわらず、千六百人を超える方々にご来場いただき、大盛況のうちに鳳雛祭の全日程を終えることができました。

八代高校部活動

八代高校には、十七の運動部があり、文武両道を目指して日々の練習に励んでいます。

平成二十三年度の熊本県高校総体では、空手部、柔道部、剣道部、陸上競技部、水泳部で上位入賞を果たしました。空手部の西岡朋美さん（鏡中出身）は青森で開催された全国高校総体にも出場しました。

一方、十六の文化部と二つの同好会も、運動部に劣らず、熱心に活動しています。

本年度の全国総合文化祭には生物研究部が出場し、また、吟詠剣詩舞部門に出場した生徒もいます。放送部は、ＮＨＫ杯全国高校放送コンテスト熊本県大会で連続上位入賞を果たしています。

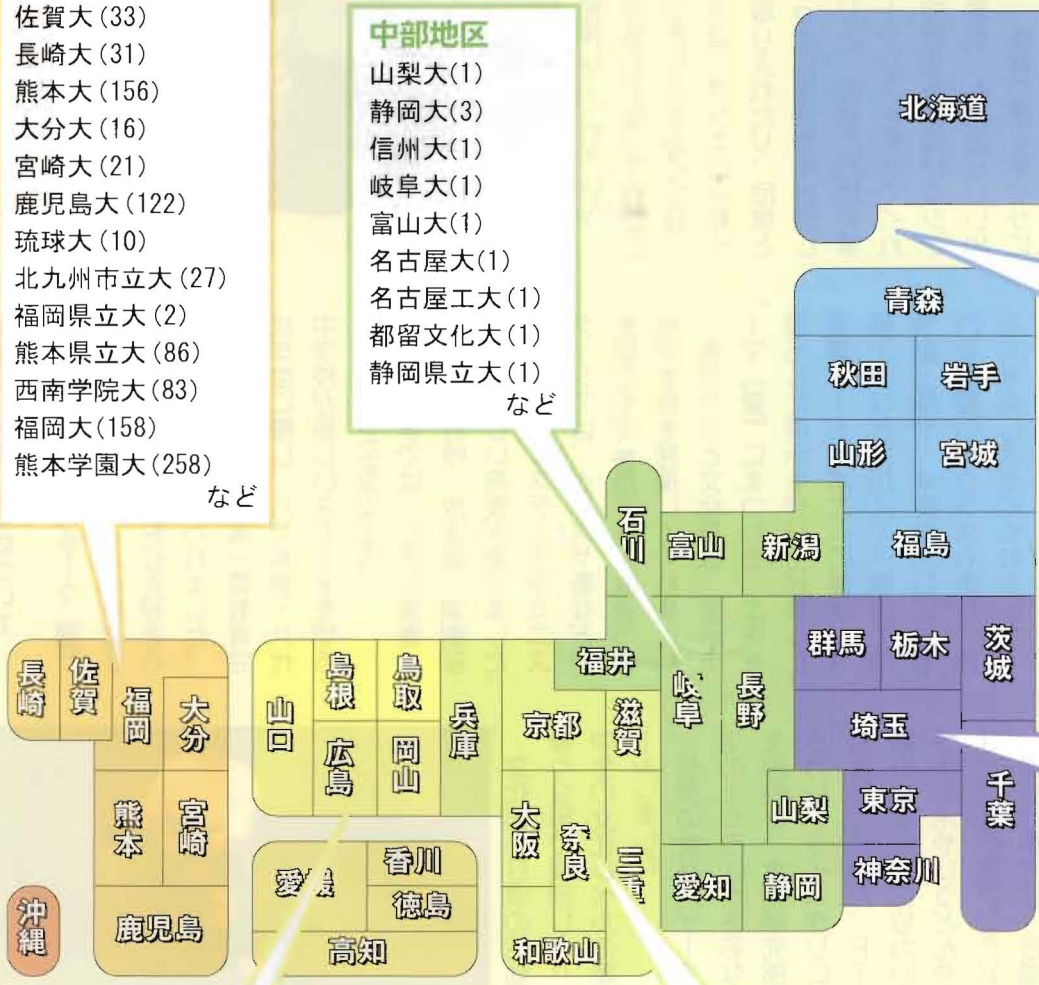


進路状況

熊本県立八代高等学校　進路指導部

毎年高い志を掲げて努力していく生徒達。先輩達の頑張る姿を見る後輩達、脈々と続く八高の伝統。下の図は、過去5年間で先輩達が合格した足跡をマップにしたものである。全国の様々な大学に進み活躍している。後輩達も是非この後に続いて欲しい。

本校生の進路希望の約98%が進学を希望し、そのうちの80%が国公立大学を希望する。そして、50%前後が国公立大学の現役合格を達成している。さらなる飛躍を目指して、日々の授業・課外に真剣に取り組み、様々な行事を通して進路意識の向上を図っている。



九州地区
九州大(47)
九州工大(10)
福岡教育大(21)
佐賀大(33)
長崎大(31)
熊本大(156)
大分大(16)
宮崎大(21)
鹿児島大(122)
琉球大(10)
北九州市立大(27)
福岡県立大(2)
熊本県立大(86)
西南学院大(83)
福岡大(158)
熊本学園大(258)
など

中部地区
山梨大(1)
静岡大(3)
信州大(1)
岐阜大(1)
富山大(1)
名古屋大(1)
名古屋工大(1)
都留文化大(1)
静岡県立大(1)
など

北海道・東北地区
帯広畜産大(1)
室蘭工業大(1)
北見工業大(1)
北海道大(4)
北海道教育大(2)
福島大(1)
など

関東地区
筑波大(17)
茨城大(1)
千葉大(7)
埼玉大(5)
お茶の水女大(1)
一橋大(1)
横浜国立大(6)
東京大(1)
東京工業大(1)
東京学芸大(1)
高崎経済大(1)
首都大東京(2)
横浜市立大(2)
慶應義塾大(7)
早稲田大(19)
明治大(33)
中央大(26)
など

近畿地区
京都大(5)
大阪大(6)
大阪教育大(2)
奈良女子大(1)
奈良教育大(1)
神戸大(3)
大阪府立大(2)
大阪市立大(1)
神戸市外大(1)
同志社大(9)
立命館大(27)
など

中国・四国地区

鳥取大(8)	徳島大(1)
島根大(2)	高知大(7)
岡山大(3)	岡山県立大(4)
広島大(33)	県立広島大(2)
山口大(21)	広島市立大(3)
愛媛大(3)	山口県立大(5)
香川大(1)	

など

八高史

修学旅行の開始

戦後の混乱も次第に収まり、交通事情も好転し始めた昭和二十五(一九五〇)年十一月、しばらく中断していた修学旅行が三年女子生徒を中心に再開された。

同年三月に卒業した女子生徒達の中で、修学旅行を熱望する声が高かったことを受けて、生徒・保護者などの意見を参考に、実施の計画が立てられた。男子は大学進学などで旅行する機会もあるが、女子の大半は将来家庭に入り旅行する機会が少ないなどの理由で、男子は除外され、三年女子一四四名の内、主に進学希望者や、すでに見学済みの者、さらに経済的理由などでの不参加者を除く九二名が参加することになった。

旅費は二、二七〇円で、小遣い銭七〇〇円以内。それに翌日朝までの弁当四食分とさらに米一升(六食分)持参の旅であった。

一行は三年担任の黒田・友田・岡本の三先生と旅行業者の添乗員らに引率され、十一月六日の朝六時二十四分、学校長以下職員・保護者の見送りを受けて八代駅を出発した。そして豊肥線で別府へ出、瀬戸内海航路の「るり丸」(三、〇〇〇トン)で翌七日正午ごろ神戸に到着。以後大阪、京都、奈良の名所旧跡などを訪れ、九日の夕方に京都駅を発ち、一〇日の午後五時二十分に全員無事に八代駅に帰着した。船中一泊、京都二泊、車中一泊の計四泊五日の旅であった。



京都 二条城にて (1952年3月卒生)

また『八高新聞』第一二号(昭和二十五年十一月二十四日発行)に「**名残りの修学旅行**」の見出しでその旅行の様子が記されているので紹介しておく。

『磯の〝修学旅行〟のシーズンを迎えて、せち辛い世の中の不況を尻目に、彼方此方で修学旅行にでかける姿が見受けられるが、本校でも卒業を目前に控えた三年女子九五名は、黒田・友田・岡本三先生と観光倶楽部戸田女史等の引率の下に十一月六日、学校長以下職員、多数の父兄の見送りを受けて午前六時二十四分発の列車で紅葉に彩られた京都へ旅立った。

一行は、熊本より豊肥線を経由、別府から内海航路〝るり丸〟に乗船、途中船の中で夜を迎え、翌七日正午頃神戸に到着、早速阪神電鉄で大阪に行った。大阪では大阪城や折から開会中であった電気博を見学、夕方頃目的地京都に向かい、二日目を京都の旅館で過ごした。明くる日の八日は観光バスで平安神宮、御所、東・西本願寺その他銀閣寺など京都の名所旧跡をバスガールの説明を聞きながら歴訪。翌九日は奈良を訪れて鹿で名高い春日神社に遊び、ここに三日間の関西での日程を終えてその日の夕方京都より下り列車で帰代の途に付き、十日十七時二十分全員無事帰着した。

この旅行に参加した人数名に感想を聞いてみたところ次のように語った。「京都では短時間に数多くの所を巡ったので心ゆくまで見学する暇はなかった。」なお男子は、上級学校試験があるため旅行は見合わせとなる模様。』

以来、本校での修学旅行は、昭和三十四(一九五九)年度から男子の参加が認められるようになるまで、女子のみで行われ、当初は三年生の女子、そして昭和三十年からは二年生女子に変更された。一方旅行の時期は大体十月下旬から十一月下旬までの間に行われ、またそのコースは当初の大阪、京都、奈良のほかに二十七年からは山田(伊勢)が加わり、さらに昭和二九年からは泊数も増え、東京や日光(年によっては、日光の代わりに鎌倉を中心とする湘南地方にしたこともある)に拡大された。

修学旅行の変更

昭和二十五年度から三年生女子の希望者を中心に復活した修学旅行は、その後、三十年度から二年女子に変更されるまで、三年生女子のみで続けられた。例年十~十一月に四泊~五泊の日程で、初めは京都・大阪・奈良を中心に見学したが、二十七年からは伊勢の方にも足をのばし、さらに二十九年からは六泊に増やして東京・日光方面にも足をのばすようになった。

一方、女子生徒の進学希望者が増加する中で、三年の二学期に修学旅行を実施することの是非が、職員及び生徒・保護者間でも論じられるようになった。



東京 皇居前にて (1959年3月卒生)

そのために当該学年の担任会でもこの問題がしばしば論じられるようになり、生徒や保護者など関係者にも相談を重ね、次年度(三十年度)からは二年女子で実施しようという結論に達した。

そこで、三十年度はその移行措置として、年度初めの春休み中に三年女子が実施し、十一月に二年女子が実施するということになった。

その結果、まず三十年四月二日~八日に三年女子(一四〇名中希望者一〇八名)が大堀・沢・鍵田・八田・隈部の五名の先生に引率され、六泊七日の日程で関西・関東を旅行。続いて十一月五日~十一日には二年女子が、ほぼ同様のコース・日程で旅行し、以後二年生に移行されたのである。

男子の参加要求

対象が三年から二年に移行する中で、男子生徒の間からも修学旅行を希望する声が起こってきた。そこで、担任会としても、男子で三分の二以上の希望者があれば参加を認めようとの方針で、二十九年度の二学期頃に二~一年生を対象に希望調査をしたが、いずれも三分の二には満たず、結局男子は見送りとなった。なお、男子の参加が認められるようになるのは昭和三十四年度からである。

(『八高百年史』より)

頑張ってます！

～高27回の
前理化学研究所北京事務所長～
寺岡　伸章



中国に負けない方法

日本人が豊かな暮らしを享受できるのは、自動車・工作機械・電子部品の三種の神器の輸出で稼いだ資金で海外からエネルギー・資源・食料などを大量に購入しているからである。

しかし、家電製品などでの台湾・韓国・中国の追い上げは激しい。かつて日本が独占していたDVDプレーヤー・液晶パネル・薄型テレビなどの市場は韓国などの企業に奪われた。今、日本の家電メーカーは束になっても韓国のサムソン一社の収益に及ばない。

一方、自動車・カラーコピー機（写真はキャノン製）・デジタルカメラなどでは依然と日本企業の存在感は高い。いったい何が違うのだろうか。

テレビ・パソコン・携帯電話のような製品は世界中から廉価な部品を集めてきてそれらを組み立てれば売り出すことができる。これらは「モジュール化」が極度に進んだ製品である。市場での競争に勝つかどうかは、廉価な賃金が鍵を握る。自国通貨の安い中国や韓国は有利になるため、日本に勝ち目はない。



しかし、自動車・カラーコピー機などの精密機械は多くの部品の「摺り合わせ」が重要になってくる。設計図どおりに組み立てても良質の製品をつくれない場合が多い。部品を「気持ち」薄め、あるいは厚めに加工しなければ部品がうまくフィットしないことがある。これは匠のワザに依存するからだ。日本の自動車の乗り心地がよいのは無数の摺り合わせの賜である。

中国政府は自動車でもモジュール化を達成しようと熱心に研究しているが、仮にそれが可能になれば、中国自動車メーカーが世界を席巻する可能性がでてくる。また、日本の自動車メーカーは一万点にも及ぶ内燃エンジン自動車ではモジュール化は困難だと主張するが、部品が少ない電気自動車が主流になるとモジュール化は可能になるかもしれない。

ITの進化はハイテク製品から摺り合わせ技術を駆逐し、モジュール化を促進してきている。匠のワザを必要としなくしているようにも見える。

日本人技術者は額に汗して真面目に働き、みんなで工夫して微妙な摺り合わせ技術を磨いてきた。このような新製品を新たに開発して、市場を確保できるかが日本企業の運命を握っているように見受けられる。中小企業がそのような匠の宝庫ということを忘れてはいけない。

さらに、部品の摺り合わせで鍛えたワザは、製品にどのようなソリューション（追加機能）を乗せるかという課題でもその能力を発揮できるはずである。ハードとソフトの組み合わせの総合力に世界の企業の戦いは移行してきているのだ。

寺岡　伸章のブログ
http://monogatari28.at.webry.info/

「音楽の力」について

～高20回の
倉敷市立短期大学学長～
江島　幹雄



同窓会の皆様お元気のことと思います。

三月十一日の「東北地方太平洋沖地震」から半年あまりの日々が過ぎ、復興にはまだまだ遠い日々ですが、日本中が悲しみを乗り越えようとしています。私は、「音楽の力」を改めてこの震災を通して感じることがありました。そのことをご紹介したいと思います。

震災のあった週末、被害の惨状を目にするのも、安否不明の放送を耳にするのも心苦しくなってきた日曜に、私は、あるFMラジオ局から流れる歌を耳にしました。「被災者のみんなが元気を取り戻すことを願って」、ラジオから流れる音楽は、いずれも明るく楽しいものばかりでした。その中でも、「アンパンマンのマーチ」には多数のリクエストが寄せられたそうです。一日のうちに何度も繰り返される「アンパンマンのマーチ」を聴きながら、被災者から寄せられる思いを感じずにはいられませんでした。「アンパンマンのマーチ」は明るくリズミックな曲で、歌詞には未来に対する想いが込められています。改めて、歌詞を読み込んでみました。こんなに思いの詰まった歌詞だったのかと、感動を覚えます。

忘れないで夢を
こぼさないで涙
だから君はとぶんだどこまでも
そうだおそれないで
みんなのために
愛と勇気だけがともだちさ

同じ歌でも、耳にしたときの状況によって、人の受け止め方は大きく違うものです。「アンパンマンのマーチ」は通常は、子供が楽しむ番組の曲として親しまれています。しかし、本当につらい状況に陥ったとき、人々が求めるのは明るい音楽と勇気を与えてくれる言葉なのだと、改めて実感しました。この曲を流す側の願いと、この曲をリクエストする側の願いに胸が熱くなりました。「愛と勇気だけがともだちさ」というフレーズに、人間の未来に対する希望と願いを実感しました。音楽が与える「癒し」は何物にも代えがたい。この癒しこそが、音楽の力です。

私は音楽に寄り添って生きてきました。「倉敷ジュニアフィルハーモニーオーケストラ」、「アンサンブル早島」、そして「倉敷アカデミーアンサンブル」。それぞれ三十年余の係わりが過ぎようとしています。ちなみに八高校歌のカラオケはこの「倉敷アカデミーアンサンブル」の演奏です。

二〇一一年七月、三つの団体が力を合わせ、震災のチャリティコンサートを開きました。コンサートは協賛金、募金のみならず、出演を快諾してくれたプレーヤーすべての出演料を、義援金として被災地へ送るという画期的なものとなりました。チャリティコンサートの結果、宮城県の小中学校にいくつかの大型楽器を届けることができました。音楽がもつ力は、こうした時にこそ大きく働くのです。

私は、同じ社会で生きている人同士が、ともに支えあい、手を差し伸べることで生き、生かされていることの意義を、こうした活動の実践を通して学生たちに継続的に伝えていきたいと考えています。



妙見祭が国指定文化財に



平成二十三年三月九日、八代妙見祭の神幸行事が、国の重要無形民俗文化財に指定されました。

日本を代表する文化財として、より広く知られる契機になるとともに、保存継承への取り組みが一層重要になります。

現在、笠鉾などを保存・展示する施設のあり方を考える基本構想検討会議が行われています。

ウインズ八代 オープン

JRA(日本中央競馬会)の場外馬券発売所「ウインズ八代」が、平成二十三年四月、日奈久埋立地にオープンしました。

鉄骨造一階建てで四一六の座席、モニター五十台、自動券売機二十台の他レストランなども設置されており、駐車場は約七六〇台を収容。土日を中心に年間一〇〇日余り営業予定です。



▲武豊騎手も駆けつけテープカット

九州新幹線 全線開業

博多ー新八代間がつながり、平成二十三年三月十二日、九州新幹線が全線開業。博多まで最速五十一分で行けるようになりました。



豪華客船 相次ぎ入港

日本を代表する大型クルーズ客船が、平成23年6月と9月に、相次ぎ八代港に入港しました。

6月には屋久島・奄美大島をめぐる「ぱしふぃっくびいなす」が初入港し、初夏の日本一周クルーズで「ふじ丸」も寄港。9月には、「飛鳥Ⅱ」が岩国・宮島3日間で八代港を発着しました。





九州新幹線全線開業イベント「イグスポやつしろ」で製作した畳表が、ギネスワールドレコードに「世界一長い畳表」として登録されました。

長い畳表 ギネス登録

八代グリーンプロジェクト実行委員会が本町アーケード内で一ケ月をかけて完成させたもので、長さは五三七・二七m。イベント後、二十mに裁断され、東日本大震災の被災地へ送られました。





循環バスが走り始めました

市内バス路線の見直しが行われ、平成22年10月から「みなバス」「ゆめバス」「まちバス」の循環バスが走っています。

3路線ともに右回りと左回りがあり、運賃は100円均一です。



▲マスコミ注目の中、事業説明と質疑応答

市民事業仕分け

県内初の取り組みである「市民事業仕分け」が平成二十二年度からスタートしました。

市が実施しているさまざまな事業を市民目線で評価してもらうもので、二十二年度は七十五事業がテーブルに載り、廃止四、規模拡充四、市民協働などの検討十四、現行どおり十、要改善四十三という結果でした。

この判定やコメントを基に市の対応方針が検討され、事業の見直しや改善が進められています。

二十三年度も、他の七十五事業についての事業仕分けを実施中です。



▲地域の強み・弱みを話し合うワークショップ

住民自治によるまちづくり

地域住民がより主体的に地域づくりに参画する住民自治の先行モデル地域が決まり、代陽・麦島・金剛・二見・東陽校区では、平成二十三年度に地域協議会設立準備委員会が設置されました。

設立準備委員会の第一回では、役員決めやワークショップが行われました。会議は月に一・二回のペースで開催され、それぞれの地域にあった地域協議会がつくり上げられていきます。

五地域では、二十四年度から住民自治がスタートする予定です。

被災地支援



東日本大震災の被災地へ、市民から義援金や救援物資が寄せられました。

義援金は日本赤十字社を通して被災地へ、救援物資は宮城県の石巻市や東松島市などへ、半畳たたみ約一万二千枚などとともに送られました。

福島和敏市長は八代亜紀さんと一緒に畳を搬送し、避難所などを慰問。市職員も交代で被災地に出向き、支援活動を続けています。

ごみ非常事態宣言中

築三十五年が経過し老朽化した清掃センターの焼却能力が低下したため、一部のごみ焼却を市外の民間施設に委託しなければならなくなり、平成二十二年七月一日、八代市は「ごみ非常事態宣言」を行いました。

委託料に年間約一億円が必要なため、市民一人一日当り五十グラム(卵一個分)の燃えるごみ減量を呼びかけています。

新たな焼却施設を備えた(仮)環境センターの建設準備も進んでいますが、最短で七年を要するため、市民の意識改革と協力が必須の状況です。



平成22年度八代高校同窓会会計決算書

(1) 収入の部（単位：円）

費　目	予算額(A)	決算額(B)	差異(A-B)	摘　要
繰越金	23,919,476	23,919,476	0	平成21年度より繰越
年会費	5,000,000	6,286,000	△1,286,000	2,678人分
入会費	1,835,000	1,835,000	0	5,000×367名分(うち中学80名)
雑収入	95,524	196,526	△109,002	名簿代、寄付、預金利息
合　計	30,850,000	32,237,002	△1,395,002	

(2) 支出の部

費　目	予算額(A)	決算額(B)	差異(A-B)	摘　要
会議費	400,000	45,001	354,999	会議諸経費
印刷費	200,000	101,320	98,680	総会案内状
役務費	800,000	610,938	189,062	郵便・電話・広告・振込手数料、HP管理費
広報費	4,000,000	3,760,033	239,967	会報発行費、HP作成費
備品消耗品費	280,000	64,520	215,480	用紙代、プリンターインク代
慶弔費	250,000	93,422	156,578	香典・電報代・記念品代
人件費	800,000	800,000	0	事務局手当
新入会員歓迎費	300,000	265,980	34,020	卒業証書入れ丸筒代・校歌CD代
旅費	700,000	402,667	297,333	支部地区同窓会出席旅費
雑費	500,000	228,500	271,500	花馬補助等
積立金	1,000,000	1,000,000	0	次回周年事業費(特別会計へ)
記念事業費	0	0	0	
予備費	21,620,000	0	21,620,000	
合　計	30,850,000	7,372,381	23,477,619	

(3) 収支決算の部

収入決算額	支出決算額	残　高	摘　要
32,237,002	7,372,381	24,864,621	平成23年度へ繰越し

(4) 金銭管理状況

普通預金	九州労働金庫	660,924
普通預金	肥後銀行2口	5,064,789
振替口座	ゆうちょ銀行	246,120
定期預金	九州労働金庫4口	15,049,262
定期預金	熊本県信用組合	3,843,526
	計	24,864,621

年会費振込金額	人　数	総金額
2,000円	2,554名	5,108,000円
4,000円	10名	40,000円
6,000円	3名	18,000円
10,000円	110名	1,100,000円
20,000円	1名	20,000円
合　計	2,678名	6,286,000円

平成23年度八代高校同窓会会計予算書

(1) 収入の部（単位：円）

費　目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	増減額(A-B)	摘　要
繰越金	24,864,621	23,919,476	945,145	平成22年度より繰越
年会費	5,000,000	5,000,000	0	2,000円×2,500人
入会費	1,630,000	1,835,000	△205,000	5,000×326名分(うち中学80名)
雑収入	105,379	95,524	9,855	名簿代、寄付、預金利息
合　計	31,600,000	30,850,000	750,000	

(2) 支出の部

費　目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	増減額(A-B)	摘　要
会議費	400,000	400,000	0	会議諸経費
印刷費	200,000	200,000	0	総会案内状
役務費	800,000	800,000	0	郵便・電話・広告・振込手数料、HP管理費
広報費	4,000,000	4,000,000	0	会報発行費
備品消耗品費	200,000	280,000	△80,000	用紙代、プリンターインク代
慶弔費	250,000	250,000	0	香典・電報代・記念品代
人件費	800,000	800,000	0	事務局手当
新入会員歓迎費	300,000	300,000	0	卒業証書入れ丸筒代・校歌CD代
旅費	700,000	700,000	0	支部地区同窓会出席旅費
雑費	500,000	500,000	0	花馬補助等
積立金	1,000,000	1,000,000	0	次回周年事業費(特別会計へ)
予備費	22,450,000	21,620,000	830,000	
合　計	31,600,000	30,850,000	750,000	

◆平成23年度同窓会行事予定 (H23.4.1～H24.3.31)

平成23年(2011)

4月26日(火)　第1回広報委員会
5月6日(金)　第1回正副会長会
6月3日(金)　第2回正副会長会
6月4日(土)　関西同窓会総会
6月5日(日)　岡山支部総会
6月11日(土)　会計監査
6月25日(土)　八代高校教育振興基金運営委員会
理事会　総会議案審議（予算案を含む）
8月5日(金)　第3回正副会長会
8月27日(土)　同窓会総会　八代ホワイトパレス　高29回担当
9月24日(土)　関東地区同窓会総会
10月7日(金)　第4回正副会長会
11月23日(水)　妙見宮大祭　花馬奉納
11月下旬　同窓会報「道」第3号発行
12月9日(金)　第5回正副会長会

平成24年(2012)

2月11日(土)　福岡支部総会
2月17日(金)　第6回正副会長会
2月29日(水)　同窓会入会式　平成23年度卒業生（高64回）

◆各支部・地区同窓会連絡先のご案内

■八代高校関東地区同窓会

会長:守屋　充男(高10回)　事務局長:中村　静雄(高19回)
〒103-0004
東京都中央区東日本橋1丁目6番10号 K·Kビル5階　中村会計事務所
TEL 03-3864-6951　FAX 03-3864-6957
定例総会:毎年9月の土曜日、東京都内のホテルで開催

■八代高校関西同窓会

会長:宮崎　正郎(高14回)　事務局長:木邑公一郎(高23回)
〒657-0015
神戸市灘区篠原伯母野山町2-2-1-408 瀬戸　章子(高15回)(事務局次長)方
TEL·FAX　078-861-9818
定例総会:毎年6月の土曜日、大阪市内のホテルで開催

■八代高校岡山同窓会

会長:今田　俊明(高10回)
〒703-8264
岡山市中区倉富7-7 吉田　高範(高18回)方 TEL·FAX 086-276-3979

■八代高校同窓会福岡支部

会長:佐藤　好助(高13回)　事務局長:礒部　和之(高23回)
〒811-1346
福岡市南区老司2-23-80　TEL 092-565-8821
定例総会:毎年2月の土曜日、福岡市内の会場で開催

■八代高校同窓会熊本市支部

会長:冨田　徹也(高10回)　事務局長:松岡　博之(高17回)
〒861-8043
熊本市戸島西1丁目3-15　TEL·FAX 096-367-1129
定例総会:隔年10月の土曜日、熊本市内の会場で開催

■八代高校大分同窓会

会長:砥上　正利(高10回)　事務局長:松本　宏次(高15回)
〒870-0848
大分市賀来北1丁目2-40　TEL 097-549-3386

編集後記

同窓会報「道」第3号をお届けします。

今回は、予算の都合で前号より4頁減の28頁でまとめました。今後同窓会報の核となる各地区だより、学年だよりの原稿もおかげ様で増え、充実したものになりました。

各地区、各学年の情報こそが、全国で頑張っている同窓生の「励み」と「絆」になるものと確信します。

更なる寄稿よろしくお願いします。

広報委員長　村山　忍（高14回）

広報委員会

委　員　岡村　洋文（高25回）

会報誌制作の準備段階から参加していて、もう5年近くになります。母校の姿を調べていくたびに、各時代の同窓生の息吹を感じています。

「同窓生のヨコのつながりがもっと豊かになるような会報誌作りを」をモットーに始まった委員会です。この会報誌をきっかけに「あいつに会いたい」「同窓会に出席しようかな」と思っていただけたら、うれしいです。

委　員　一（はじめ）　親房（高28回）

座談会を担当していますーです。はじめまして。 八代高女時代のお話の中で、特に印象に残ったのは、終戦の年に女学校で豚を飼っていた話です。飼育係は女学生で、毎日リヤカー引いて、本町で残飯集めをしていたそうです。ところが、夏休みが終わったら、豚がいなくなっていたとの事。豚はどうなったんでしょうか。

委　員　成尾　善明（高49回）

八高の歴史を担当しました。今回は八代高等学校になって以降の修学旅行について、『八高百年史』から拾い出してみました。最初は女子だけの参加だったことなどを初めて知ることができました。少しでも、皆様に「へえ〜」と感じて頂けたなら幸いです。

◆住所変更時の連絡のお願い

事務局では会報発行の際、住所不明で返送される分を極力減らしたいと考えています。

住所変更の際には、事務局までご連絡いただきますようよろしくお願いいたします。

尚、同級生がお亡くなりになったときには、事務局へご連絡いただきますようお願いいたします。

連絡先　〒866-0885　熊本県八代市永碇町856
熊本県立八代高等学校同窓会
TEL 0965-33-4138　FAX 0965-35-8463
メールアドレス　85jimukyoku@hachiko-dosokai.com

同窓会告知無料放送!!

幹事さ〜ん！
同窓会の呼びかけ、メッセージをラジオから届けます！
平成９年10月に、八代にコミュニティーＦＭ局エフエムやつしろ　76.5ＭＨｚが開局しました。
現在、13周年目を迎え地元の情報中心に発信しています。
・同窓会をしたいけど、呼びかける方法がわからない
・○○ちゃん、元気かな？
などのメッセージに最適です。

例）八高○回卒の皆さん
お待たせしました！同窓会を○月○日○時から○○で行います。
今回、先生方にもお声をかけていますので多くの皆さんのご参加待ってます！
詳しくは、幹事○○　まで

無料で承ります！
放送時間は当局に一任
詳しくは、エフエムやつしろ
ＴＥＬ　0965-43-7651
メール　765@kappafm.com

エフエムやつしろ 76.5MHz JOZZ0AE-FM



平成22年度 妙見祭フォトコンテスト入賞

妙見祭のフォトコンテストで八高のポニーを撮ったのが入賞しました。

タイトルは「勇ましい美女軍団」。八高のマークがバッチリ写っていました。

高10回卒　岩本　孝子

「平成24年度八代中学・八代高女・八代高校同窓会総会」

平成24年８月25日(土)
午後12時30分受付開始
総　会　13時30分から
懇親会　17時から
会　場　八代ロイヤルホテル

来年度の大同窓会は、高30回生が担当します。
多くの皆さんの御参加をお待ちいたしております。

八代高校同窓会　検索

http://www.hachiko-dosokai.com/index.htm